
りばいばる

け

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

りばいばる

【Nコード】

N3601V

【作者名】

け

【あらすじ】

1990年に病死した中矢晴海は昭和マインドな記憶と共に、2062年の日本に春宮晴海として転生してしまう。

社会・風俗・技術、あらゆるものが、見知らぬものと化していた日本。

今日もハルハルのツッコミは続く！「あたしどうされちゃうのかしら」

この作品、戦闘成分は皆無（10%未満）となる予定です。

その少ない戦闘も、切った張ったは無く、残酷描写は付きません。
しかし将来的にはR15警告くるかも！という意味から、お察しく
ださい。

（警告が来たらR15タグ「その他」が付きます）

あと、主人公は実はチート能力アリなのですが、当面は発揮しま
せん。

見切り発車の不定期更新。エターナっちゃったらゴメン。落とし所
がまだ・・・

設定の不備とかは頻繁に修正してますので、それが途絶えたら要注
意。

#01 りばいばる

病室の白い壁。かけられた中学の制服。

両親を早く亡くし、祖父母に育てられていた彼女は、8歳の頃に病に倒れた。

それから数年、闘病を続けるうちに祖父母も相次いで身罷ってしまった。

見舞いに来る友達もとうに絶え、それでも。

帰る場所すら、とうに存在していなかったのに、それでなお。

泣き言の一つも零すことすら無く、ただひたすらに治療の毎日。

結局、中矢晴海が中学校に通う日は来なかったのだろう。

カレンダーの年号は1990。9月の暑い日。そのあとの記憶はない。

はたして、彼女の辞書には「絶望」という項はあっただろうか？

#01 りばいばる

ふと気づいたとき、あたしは赤ん坊になっている自分に気づいた。小さな手、大きな頭、首も座っていないのか寝返りすら打てない。

あれ…なんで？

輪廻転生という言葉が頭に浮かぶ。これは生まれ変わりというものか…

話には聞いていたけど、まさか自分が経験するとは思わなかった。

どこも痛くない苦しくない、健康な体。なんて素晴らしい！

「ハルミちゃん」

誰かが声をかけている。ん、日本語？

というか、もしかしてまた晴海なのか。

声からして男の子のようだ。父親にしては若いので兄かなにかだろう。

兄という存在を持ったことがないので楽しみである。

なんとかして顔を拝もうと視線を向ける。

薄ぼんやりとした視界の中に・・・

（のっぺら坊？）

お爺ちゃん、お婆ちゃん、晴海は妖怪の国に転生してしまったようです。

というのは早とちり。

のっぺら坊と思ったのは、なんとアンドロイドだった。

どれだけ未来に転生したんだろうとあとから調べたら、西暦2062年。

前世からは概ね70年。大正末期から平成に転生したのと同じくらいである。

つまり、某はいからさんが現代にタイムスリップしたようなものだ。

それだけ経てば、アンドロイドの一つや二つ出来上がっても確かに不思議ではない。

このアンドロイドは『ワラシ』と呼ばれている。
アンドロイドってのはカテゴリだから、ワラシ型アンドロイドとなるわけだな。

新しい家族は、いまいち冴えない父ちゃんと、生前のあたしによく似ている母ちゃん。

そして、それぞれに専属のワラシ。

父ちゃん母ちゃんは仕事で家を空けがちだが、ワラシがそれはもうおんぶ日傘で甲斐甲斐しく面倒を見てくれているので不自由を感じたことは無い。高性能だなワラシ。

しかし、ひとり一台にアンドロイドって、もしかしてウチって金持ち？

家もバカ広くて、庭は輪をかけて広い。100m四方はありそうだ。

ワラシに連れて行ってもらい境界を確認してみると、周囲は林になっていて小道と区切られている。

小道は車両が通行できる幅ではない。物流はどうなっているのだろうか？生活必需品などはいつの間にか家に届いているのだが、着いたところを見たことが無い。

実のところ、これらは現代では極々一般庶民の暮らしだったのだが、それについては追々。

遠くに見える景色も実のところ色々とツツこみまくりだが…

そんなわけで、あたしは取り敢えず人間社会に転生していた。

とまあ、よく分かってないうちにもう3歳。

テレビから得た未来の情報は突拍子も無く騙され感が大きいので、

実際に目にするまでは眉に唾つけてツツこみは控えている。正直、ツツこむのに疲れる質と量を誇る。

歴史、制度、魔法（？）、怪獣……あーうー。なまじ異世界とかじやない分、インパクトが半端無い。ねー、ホントに未来？異世界であってほしい。

ごろごろしているのにも飽きて「庭で遊ぶ」ようになっていく。ワラシの言うには、自分の「庭で遊ぶ」やり方は独創的らしい。よくわからないが。

まずは測量。料理用だかのタコ糸を調達して、周囲を図ってみた。その結果、目分量の通り敷地は正確に一边100mの正方形。幅5mの遊歩道を挟んで隣家となっていてことが分かった。これは比喩ではなく、そのように規格化された住宅街であるようだ。ちなみにうちの近くは空き地ばかりで人影は滅多に見られない。閑静なと言えはいいが、寂れすぎではないか？

そのせいか野生動物が色々と棲家を構えていて、うちの隅では狸が居住権を主張している。このあたりは櫓の木が豊富で、そのドングリなどで暮らしているとはワラシの証言。夜中に食べている姿を何度か目撃している。

隣の敷地の猫家族とは不仲な模様、食生活が違うのにどうして争いは絶えないのだろうか不思議である。隣には他にカラスが居住。

敷地周囲の林帯は幅5m高さ30cmの盛土に広葉樹を中心として植樹され、散水装置と常夜灯、そして防犯監視装置がセットになった電柱（？）が10m置きに配置されている。

防犯に留意されている所を見ると、やはり未来であっても犯罪は無くならないものらしい。人間が就眠中にワラシが保守するのとこのとで、機械的故障もやはり無くなっていない。落ち葉の掃除や雑草

の草むしりも同様に行っている。
こうして調査した項目はワラシに地図化してもらって管理している。

庭は灌木を植えている場所も多いがほとんどが草地となっている。危険なことに、草地の中に池がある。一度落ちそうになって、その後にはワラシに是正を求めた結果、周囲だけ草を刈るようになり池の周りは柵が張られた。

狸の水飲み場にもなっているようで、一部だけ柵は穴が開いているが、気をつければ良い。

除草剤など農薬を使うのかと思ったが、病虫害防除はあまりしない方針らしい。

そのせいか、蝶・カマキリ・甲虫からハエ・蚊・ゴキブリといった昆虫。蜘蛛にカエルに野ねずみ、それらを捕食する狐・猫・ふくろうといった自然の楽園というか野生の王国風な有様になっている。これで川があれば、と言ったらあるらしい。「ここ」でそんな無駄に凝ったことをしているのは驚きだ。田畑は「別の場所」らしいので、古き良き日本の光景というには画竜点睛を欠くのだが。

次に、地下の調査に移る。とりあえず、庭の真ん中で穴を掘る。麦わら帽子に軍手の少女がスコップを抱えて、掘るべし掘るべし掘るべし！

10cmも掘れば汗だく。休み休み掘り下げる。しかし庭は広いが、掘り返してみると意外と浅かった。50cmも掘ると排水管だか何かにぶち当たる。こんなので穴ぐら暮らしの狸がどうやって暮らすのかわからない。

ただ、何箇所か掘ってみると深い土地があったりする。庭図面にプロットしてみると、どうやら樹木を生やすポイントか何かが規則的に設置されているようだ。

そんなこんなで庭とか隣家とか走り回っていると生傷やらが絶えない。必然的にワラシの装備には救急箱が必携となった。

ある日の春宮探検隊の装備点検記録。

頭：麦わら帽子、顔：ゴーグル、首：温泉手ぬぐい、胴体：長袖ワイシャツ、手：軍手、足：小児用ズボン、靴：ゴム長靴。

お供のワラシのバッグには、タコ糸、ビニールテープ、定規、ハサミ、洗濯ハサミ、接着剤、ピンセット、ビニール袋、瓶、虫取り網、スコップ、折りたたみバケツ、水筒、救急セット、裁縫道具。動物の糞などを収集するのに新聞紙が欲しかったが、紙の新聞雑誌は廃れてしまっていたのが残念でならない。記録用品はワラシがいれば不要だ。

うん、充実しきっている気がする今日この頃。

さて、三歳の春と言えば、幼稚園入園おめでとー。うん、自分なんだが。

ここでイベント発生。自分のワラシに名前を付けると母ちゃんが。今までは単にワラシと呼んでいたのだが、幼稚園に行くとなると他の園児の御付きもワラシである。

ということで、とくに深く考えずにゼンマイと名付ける。

「わらびじゃなくワラシだよ」

面白いこと言っただつもりか？ゼンマイ。

話の端々からすると『精霊機構』とかいうところを作っているらしい。

少なくとも日立東芝富士通ソニーなど大手は残っているようだが、松下製品を見かけない。水戸のご老公様はパナソニックという別会

社の提供になってしまっているな。うーむ、第93部が：

このワラシ、てつきり個人所有の財産かと思っていたのだが、派遣らしい。

無償で全ての人間等に半強制的に押し付け：配られている。

貸し出し元が精霊機構であるが、これは企業とはちょっと違う。

精霊機構は日本人によって創りだされた知性体だという。

この世界で、あたしがツツこんでいるあらゆる事柄の元凶だ。

人工知性体という点ひとつ取ってもツツこみ処満載である。

ワラシはその末端であって観察者として送り込まれる。

なぜ覗き屋など受け入れられているか？といえば話は簡単だ。

観察の代償に、彼らは人間をサポートするからだ。24時間36

5日年中無休。

子守りから介護、仕事の手伝い、鬱憤晴らしの虐待のお相手、犯罪の手助けに、自殺幫助まで。観察のためと称しては、完璧にこなしていく。

後半は、どうなのか？倫理的には？

たとえ精霊機構に不利益を与えるような行為だろうが、指示されれば躊躇いは無い。

そしてワラシにその行為を証言させようとしても無駄だ。主人の秘密は絶対厳守する。

ワラシは証言せず

と言われる所以である。

ともかく、ワラシはパートナーとなった人間に忠義を尽くす。ように見える。

これを素晴らしいと思うのは浅はかだと思う。忘れてはならない。奴らはあくまで「観察」しているのだ。

短期的な不利益であろうとも、長期的に信用を醸成するための絶対服従なのだ。

これはジャーナリストや医者・弁護士・研究者などに通じる。友達としてそこに居るのではない。

反社会的行為だろうが、むしろ貴重な行動情報ごちそうさま。

一応は忠告するようだが掣肘はしない。人倫を説くことも、一切の口答えすらもない。

どう破滅していこうとも、主人の自由と不干渉を貫く姿はアップパレなほどだ。

話していると判る。ゆがみが無さ過ぎる。

こいつらやっぱり道具なんだなー、と。

顔の造作は自由自在なのだが、初期状態のまま「のっぺら坊」にする人は多い。

不気味の谷現象というらしく、人間そっくりというのは好まれていない。

のっぺら坊にも関わらず、なんとなく愛着が湧いてきてしまうのが困りものだ。

分かっている。困っているのは自分のせいであってワラシの問題ではない。

周りの誰もが、いつか自分を置いて先に進んでしまう。あたしの記憶はその繰り返しだ。

それは呪いとして、常にあたしを束縛し、酷く不安感を掻き立てる。

ジオンの偉い人は言っていた、人は生きている限り一人だ、と。とうに現在の人間は共に歩いてくれる相手を手に入れてしまっ

いる。

もう、そんなことを心配する必要はないのだろう。

それでもなお。だからこそ。呪われているのだ。あたしは。なあ、本当にお前は居なくならないのか、ゼンマイ。

明日は入園式。

とりあえず、もう寝よ。

#01 りばいばる（後書き）

【本編よりも長くなることもあるかもしれない後書き】

この小説は、設定厨な作者が自己満足するために書いてみたわけだが：

ストーリー、いらなくね？

「ハルハル、ぶっちゃけすぎ」

あー、なんだハルハルって？

今現在のあたしはハルハルとは呼ばれていないぞ。苗字すら出てない。

「それについては第二話で。苗字もハルハルもあらずじにあるじゃない」

お前もぶっちゃけすぎじゃないか？

「まあ、無駄にクソ長い。ということで後書きに左遷された設定解説乙」

本気でぶっちゃけた！

ともかく、文才の無さ以前に本編にはほとんど役に立たない設定は後書きで書こうという主旨だな。

「『ほとんど』というのが曲者で、たまに本編でも使われる設定があつたりなかったりするとか」

このコーナーはこの世界で周知されている一般常識としての設定を説明するわけだ。

だから本編でいきなり出てきてもおかしくないと思って欲しい。

ワラシについて述べておこう。

好奇心から、根掘り葉掘りゼンマイに質問しまくった成果だ。

まあ、読み飛ばしてくれとありがたい。

身長160cm、180cm、体重80kg、体表温度36度。
動力は電子励起金属燃料で、このパックを週ごとに補給している。
この燃料、核燃料ではないがTNT換算にして20kg弱だとか。
そもそも何故にTNT換算？爆発願望でもあるのか？

「危険物だから、万が一のためね。ここ50年間で数件程度だけど、一応。

具体的には、露出した燃料パック、事故で修復限界を超えてバラバラになったワラシ。

それらを見かけたら、遮蔽物の陰か、開けた場所なら100mは逃げておくこと。

間違っても近づいちゃダメだよ」

危険物なのは充分に分かったが、こちらは幼児なのだ。なんか変だな？

「晴海ちゃん、知能発達が跳びぬけてるからね、それに合わせているんだ」

む、教養番組やら観て理解しているのバレてるのか。

考えてみると、この年齢なら幼児番組とか観てるのが普通だろう。だが、自分と来たらお気に入り録画リストがニュースに教育番組。…こんな幼児いねーよ！こえーよ！と自身にもツツこんでこう。

閑話休題。

シミひとつない白い肌、膝まである黒い髪は一種の放熱器官になっている。

通常は水冷も併用するため髪の毛まで過熱することは滅多にない。汗をかいているのを見たときは目を疑ったものだ。

とはいえ、呼吸器・消化器官は殆ど不要。

代謝に酸素を利用しないので、心臓のような高出力常時稼働なポンプも必要ない。

結果、重要度の減った胸部には制御系であるプロセッサとストレージを収容している。

これは名前から分かるようにCPUとメモリに相当。頭部にも同様に設置はされているが補助である。胴体の中央近くに配置することで効率を上げているという。

またワラシは休息をとらなくても問題はないが、実際はある種の半球睡眠をとっている。

イルカとかと同じ方式。集中力にムラが出ないようにしている。

柔らかな身体の9割方を構成しているのはナノマテリアルという素材。

プログラム次第でゲル化ゾル化が自由自在な高分子系有機素材だ。これが、特定の電流パターンによる操作で細胞様ゲル構造体コロイド群を形成する。

これによってT2で出てくる敵キャラみたいに、破損しても自力で再構築できるらしい。

ビデオでさえ五年も使えばガタがくる。

ましてや100軸ほどもありそうなワラシの耐用期間は？

一人一台という需要を満たすならば、自動修復は当然の要件だろう。

このため故障することは余程の事態だが、万が一の故障でも近場に予備筐体がある。

この予備筐体をセットアップして観察を続行する。

そこまでしてまでも見逃したくないというのだろうか。根性は評価しよう。

このゲル構造体を繊維状に配置して筋肉様組織、格子状に配置して硬化結合骨状組織が構築される。他にも物質・熱量搬送路としての循環器、身体保護の皮膚組織などもあるが、上の二つがメインだ。筋肉様組織は直流電流により高効率に収縮・伸長し、これを動力として活動する。

このようにワラシのコンセプトはATPベースな生物の細胞コンセプトとは大きく異なっている。

特に重要なこととして、パワーソースがミクロのレベルで内蔵していないことだ。

細胞分裂などの高機能な要件はバツサリ排除され、ワラシは細胞レベルでの代謝はしていない。糖・アミノ酸・脂肪酸・燐酸などの生物系な要素すら直接には含まれていないため、免疫系も存在しない。

劣化したナノマテリアルを排出し、新たに不足分を補給する方式だ。

修復を司っている組織はコントラクタと呼ばれる。

修復のみならず、作業に応じて外部からマテリアルを補給して、骨格の再構築まで行う。

身長に幅があるのはそのせいだ。

硬化結合骨状組織を中心に筋肉様組織を接合して組み上げた身体シルエットは人間と同じである。人間と同居する以上、人体と同じ自由度・可動域・出力などの力学的特性が必要とされるからだ。

ドアの開け閉めなど建具の運用、通路の通行、e t c . . .

ただし当然に生殖機能や内臓機能は不要なので、骨盤は小さく腹

回りはすつきりとしてスタイルはいい。

ワラシとパートナーの会話についてだが、両者は無線で通信が可能になっている。

これは、パートナー側の体内にインプラントユニットを埋め込むことで実現している。このナノマシンは脳関門を突破し大脳に固着し、言語野・視覚野などとインタフェースする。

この通信により、公共ネットワークとワラシの情報能力が利用できる。

そのため、この時代にはコンピュータ端末はあまり使われなくなっている。

また、旧来からの記憶力を試すタイプの試験も授業も、意味を成さない。

サイボーグ化とも言える危険な技術だが、利用しない場合に多大なハンデキャップとなってしまうため、余程の事情でなければこの処置を受けている。

最後に特殊な形態として、極限環境保護モードがある。

これは火災などの極限状況において、パートナーの身体を保護する強化服として再構成するモードだ。この強化服形態は外部気温500度で5分、真空中などで6時間の生存を確保する。

再構築時に筐体内部が埃や塵などに汚染されるため、このモードを使用した筐体は破棄される。

あくまで緊急避難が目的で、滅私奉公モードとも言われる。

「極限状況で主を守って散っていく…なんとかっこいい！」

いや、お前らバックアップあるだろ。

それにしてもキャラ変わってないかお前。テンション高いな…っ

てゼンマイ^{ダツシュ}、かよ！

「ふふふ、ばーれーたーか。では15禁が付く頃までしーゆー！」
出番まで戻ってくるな！

ん、15禁？え？

#02 わんこちゃん

Q・物流はどうなっているのでしょうか？

A・地下に交通システムがあります。

放送番組で見て知ってはいたのだが、今まで使う機会が無かった交通システム。

個室の電車って感じの交通システムは、各家庭の地下に引込み線の停車場が設置されていて、ドアツードアで目的地に自動運転される。

これで両親と共に向かっているのは幼稚園だ。卸したての晴れ着、真っ白な靴下、ピカピカのエナメル靴という出で立ちである。

びゅーんとかつとばす車内から外を見るならば…

綺麗な星空だなあ、母ちゃん。

#02 わんこちゃん

地下には星空が埋まっている。のではない。

今の日本人の住処が宇宙植民地である、ということだけの話である。

あたしらの家のあるコロニーは、半径6kmの皿型の密封居住ブロックを二個、全長280kmの数万本のワイヤーで繋いである。

これを回転させることで重力を生み出していて、天秤タイプと呼

ばれる。

島三号などとは違う方法が採用されているのは、使いものにならないからだ。

島三号のシリンダー直径は6 Km。

これから接線速度を求めると、たかだか時速612 Kmに過ぎない。

ここでこの交通システムを例に考えてみよう。

この車体は昔の国鉄在来線の最高時速とおなじ時速120 Kmで設計されている。

居住ブロック内部を最大10分程度で行き来できるようにだ。

これが回転半径が3 Kmしかないコロニーで走行した場合、回転方向に向かう車内での重力はといえば、なんと1.40 Gにもなるちなみに、逆方向だと0.64 Gだ。

これに乗るのはちよつと勘弁させて欲しい。

結論として地上に近い感覚で暮らすためには、前述のと通りの回転直径が必要となる。

ちなみに居住目的では無い場合、例えば農林水産業コロニーなどには島三号タイプが使われているし、工業コロニーなどには全高1000 Km以上に及ぶ天秤タイプの変形版も存在する。

しかし、残念なことに運動の感覚は大きく変わってしまったている。遠心力は重力の代わりにはならない。

特に注目する点は「コロニーで物体は『緩やかな加速で落下』する」のである。

コリオリの力で横方向に加速するはずだが、垂直跳び程度では感じない。

原理をなんとなく説明するなら、

ハンマー投げのハンマーが投擲してから加速すると思いますか？

と。これで判る人がいるのか？と思うだろうが、テレビ番組でそう説明していた。

未来人すげーや。

落下物が加速しているように見えるのも、回転座標の妙なのだという。

ともかく投擲物はサインカーブを描いて飛んでいつてしまったため、勝手が違う。

しかし、この状況下でも宇宙野球など存在している。

動物もまた同様に、そんなこと気にもせずに対応し、飛んだり跳ねたりと元気だ。

…マジに慣れつつものは恐ろしいものだと思う。

密封居住ブロックは照明として天井部に巨大な人工太陽灯が設置されているのだが、陽は登りも落ちもしないため風情のないことおびたらしい。

え、ミラーで太陽光を取り入れればいいんじゃないかって？

ははは（力ない笑い）…それはまた後日にでも。

雨や雪も噴霧器によって散布されているという点も残念だが、四

季を再現して植生を維持するという目的なので仕方ない。むしろ一定環境のほう管理が簡単なのだから頑張っている。

ちなみに、このコロニー群は人間の作ったものではない。

これもまたワラシと同じく、例の『精霊機構』が作っている。

コロニーのみならず、原材料やエネルギーなどの資源は、すべて精霊機構から人間に提供されている。それが精霊と人間の盟約による対価なのだ。

人間一人一人に対して、尋常でない物量が精霊から供与される。風が吹けば桶屋が儲かる。

この制度の帰結は、この時代の男にとって過酷な状況を引き起こしているのだが……

あたしは女の子だし、関係ないわね

コロニー内には野生動物も放されていて、庭で狐や狸と出会ったりして驚いたが、狂犬病とかエキノコックスは大丈夫なのだろうか。

さすがに熊とか猪のような大型動物に出会ったりしたら病氣以前に生命の危機だ。

いくらなんでも21世紀の宇宙植民地で三毛別襲事件の再来とかはあるまい。

ただ実のところ信じがたいことに、そんな熊害すらも生ぬるい厄災の存在がこの時代には存在する。

それに関しても一介の幼稚園児の生活には関係ないだろうけどね。

そういえば、冬期の風物詩であるインフルエンザのニュースも聞かないし、新三種混合ワクチンなどの予防接種すら受けていない……コロニーという隔離環境が影響しているのかもしれないが、本当に

大丈夫なのだろうか？

幼稚園に入園するまで、気にも留めてなかった。

検索してみる。ウイルス、感染症つと。

えーと、2007年度ノーベル医学賞アポトーシス器官と石化反応？これかな。

「1998年度におけるインフルエンザなどウイルス性疾患の罹患数の激減の原因をWHOが中心となって調査。この調査によりアジアを中心にミトコンドリア変異ウイルスのパンデミックの痕跡が確認される」

「変異したミトコンドリアは小胞体ストレス反応と同様にアポトーシスを誘導する。特に重篤なウイルス感染・癌化に反応し、細胞膜に不可逆な変異を誘発するものである。結果としてウイルスや癌細胞は増殖を抑制されるため、感染は表面化できない」

「アポトーシス器官と石化反応と名付けられた発見に対し、発見者のフィリップ・ノーマン教授は2007年ノーベル医学賞を受賞。しかし、後年のシミュレーションの結果では、水平感染力が弱いという傾向があることが判明、パンデミックの経路に関しては謎として残された。石化反応は計算上では自分自身の感染力にも影響するからであつた」

「日本人には精霊戦争時の帰化難民を介して伝搬したと推測される」
…よくわからない（涙）。ウイルスと癌って克服されてる？

前世は癌だったから、そうだったら嬉しいな。

それと何げに『精霊戦争』の記述が…ええい、スルーだスルー。見なかった！

幼稚園に到着したみたいだし。

ほー、ここが21世紀の幼稚園か！
なんというか、広いなー。
お、わんこわんこ。お手っ。

ぼむ。

ん？

伸ばした手に重ねられる小さな手のひら。

見上げると、おかっぱの少女がニコニコニコとしていた。

「あたし如月杏子^{きさらぎ あたし}、あなたは？」

はい、春宮晴海です。

いや、わんこって言ったんだけどな。

わんこちゃん？

「じゃあハルハルね。よろしく。あたしはわんこね」

すごい積極的な娘だなあ。うらやましい。

こちらこそ、よろしくお願いします。ふかぶか。

これが如月杏子、わんこちゃんとの出会いだった。

わんこちゃんとお手て繋いで集合場所に。

二度目の幼稚園。辛いものはないかって？そんなことは無い。

古典漫画の小学生探偵よろしく、見た目は子供！頭脳は大人！ではあるが、前世では祖父母に育てられ幼稚園は行かず、小学校早々に入院してしまった。

つまり、そのなんだ。

…友達いなかったんだよ…orz

いや、ありがたやありがたや。

呪いのせいで、あたしはコミュニケーション能力に十字架を背負

っている。

わんこちゃんを見習ってリハビリに励まなければ。

「ハルハル、一緒に来てるあの男の人、お父さん？」

うん、入園式の付き添い。

「ハルハルの家、お父さんいるんだ。珍しいね！」

……いやー、ははは、笑うしかない男性受難時代。

先程の話での過酷な状況の実態が今まさにここに。

人間一人一人に対して、尋常でない物量が精霊から供与される。
つまり、子供を持てば持つだけ金持ち。そして男は子供を産めない。
い。

子供こさえたら父親いらねーじゃない？

合掌。

集合場所の運動場は賑やかだった。

年長年中組15名、新入生10名、保護者23名、先生7名、各人のワラシで合計110名。犬が4頭、猫が5匹、ニワトリ5羽。
えーと、幼稚園の住人は総出？

あたしの住んでいる春告町コロニーは充当率50%のド田舎。
人口5000人だから、現在の住人の1%ほどの勘定となる。

精霊機構のテコ入れで一般に教育関係施設は充実している。

幼稚園ですら敷地10ha。後楽園球場8・7個分の広さがあり、丘あり谷あり平地ありと住宅部とは異なった複雑な設計がなされていて、本当にコロニー内なのかと目を疑ってしまう。わざわざ30mほどの高台を作り基準面とし、高低差を作っているそうだ。

このため、不審者が入り込もうとしても、林を抜け斜面を登ってこなければ、ここにはたどり着けない。もちろん電子的な監視システムをくぐり抜けられての話だ。

たどり着いた侵入者にとっては、24時間監視を続けている40体のワラシ警備員 御庭番 も敵となり、発見され次第に確保される。

どこの軍事施設だろう…

ん？ 同い年が10人前後って意外というかだいぶ少ないな。

数十年分合わせても千人にも届かないじゃないか。

「若い人は他所に就職したりしてるからね」

おおう過疎地！ なんとという箱物行政！

「企業誘致が進んでくれると、従業員が移り住んでくるから人は増えるはずだよ」

充当率100%で100年に分けると各年代100人程度。

釣鐘型人口比率として150人規模って感じなのかな？

3学年450人と予定しても、やっぱり広いよな。

とはいえ、そもそも半径6kmのコロニーだから約1万haで定数1万人。

10人分程度の居住面積だから、多くない？ むしろ小さい？

…考えるのやめよう。この時代の敷地面積のスケール感はそういうもんだ。

ともかく、春告町立幼稚園の第七回入園式が始まろうとしていた。

#02 わんこちゃん(後書き)

【本編よりも長くなることもあるかもしれない後書き】

「というわけで、入園式編の前編でした」
ひゅーひゅーぱふふ。

「しかし国鉄とか後樂園球場とか、一々例えが古臭いね。ハルハル」
ほっとけ。年寄りっ子だから、伝染っちゃってるんだよ…

「コロニー物理学、もしかしたら間違っているかもしれませんが」
作者は一所懸命計算していたみたいだけど「コリオリの力がどうしてもE・5とか出てくる!!!」とかわけ分かんないことを叫んでいます。

回転半径140Kmもの高さだし、数十mの落下ならそんなもの？

島三号モデルに関しては、必死こいて検算したところ

- - - - -
- - - - -
- - - - -

1Gの遠心力を生む接線速度は

半径 3000 [m] の場合 171.52244751
0523 [m/s] (617.480811037881
km/h)

角速度

0.0571741491701742 [rad/s] ,
3.2758374470238 [deg/s]

周期

$$\left[\begin{array}{c} \text{m} \end{array} \right]$$

速度の変位量

[illegible]

遠心加速度と%変化

0	2	1
4	5	0
8	6	3
6	2	7
3	9	2
7	4	5
7	4	4
0	7	9
2	8	0
2	0	7
	1	1
	1	3
	5	9
	9	5
	6	9
	,	,
	0	9
	,	.
	-	8
	5	0
	.	6
	6	6
	0	5
	8	,
	7	9

[illegible]

と変更したわけですが……

「まんま種の砂時計型コロニーと同じ方式だよな、これ」
もしかして、同様の結論に達してコロニー考証しなおしたのかも？侮れないな種。

「でも電童のぶっ飛んだセンスのほうが好きとか言ってたよ、作者」

さて、衝撃の男性の受難について。これは本編でも語られたように盟約が原因だ。

「宇宙移民を受け入れるなら、国民にワラシと物資を提供。という大盤振る舞いな盟約ですね。まあ、総生産力の%未満なんです」

相手が人間じゃなかったから、まさかの罫の存在など気にも留めず。

「罨なんて心外です。精霊から見ても想定外でしたよ」

それは嘘ダウトだろ。おそらく精霊おまえらは承知していた。状況証拠しか無いが、精霊の計画性を指摘しているのは、あたしだけではなく多くの社会学者もだ。

まあ、たとえ畏に気づいたとして、どうすることも出来なかったはずだ。

無理矢理に押し付けられていたら同じ事だから。

盟約は、人間側に受け入れさせる口実としての手段に過ぎない。何を「受け入れる」のかと言えば「男性陣に対する事実上の差別」だ。

真正面から「これからあなたたちの半分を差別します」とは言えないからな。

しかし精霊の都合のためには、どうしても必要だった。

なぜ、必要だったのか？

その分析の前に、まずは精霊の都合を確認する必要がある。

今回もまた割愛するが、精霊は一部の人間のスキルである『珠法』を必要としている。

簡潔にまとめれば、

精霊にとっては人間が繁栄してくれると都合が良い。

そして一時的な繁栄ではなく恒久的な繁栄を求めることは当然だ。ならば、生物種としての多様性が必要となる。

クローンではこの条件は満たせず、結果を求めるなら無作為な生殖が望ましい。

無作為な生殖、さすがにそれを押し付けたら、人間は精霊を受け入れるはずはない。

結婚とそれに伴う貞淑さという道德が拒んでいるからだ。

かくして結婚制度は邪魔物と判断されたが、その廃止を強制するわけにはいかない。

しかしそれならば、自ら望んで結婚制度を形骸化するように仕向ければ良いだけの話だ。

結婚制度の形骸化。それには主に二通りの方法がある。

結婚を忌避させるか、結婚を無意味とするかの、2つだ。

愛情とかの感情的要素は、操作するにはリスクが大きすぎる。操作は反発を生む。

この方向の計画が成された形跡は見られない。

精霊は何も示唆も誘導も直接には行わない。

対価が「不干涉という信用」であり、巨大なリスクだからだ。

精霊は「不干涉という信用」に膨大な物質的・時間的リソースを積み上げている。

する時は余程の覚悟をして慎重に、提案するだけだ。

精霊が目にしたのは女性の社会進出の向上と結婚願望の低下の相関だと思われる。

これは、女性が結婚する大きな要因は経済的問題による。ということの意味する。

そこで精霊は、直接的に報酬を与えることで経済的問題を解消することを企画する。

かといって、露骨に子作りに報酬を言い出したとしたなら拒絶反応が起こるだろう。

そこで搦め手を準備したのだ。盟約として準備された一節の中に、全ての国民に、生活圈維持拡大に要する資源を提供すること。

一見、何事もない社会保障の提供。

そしてこれを、あたかも機械的融通の無さであるかのように、国民一人一人に対してと、馬鹿正直に解釈してみせたのだ。

これがどういう事態なのか。女性たちが気づくのに時間はかからなかった。

もつとも、離婚に至った割合は極々少数だった。

しかし、その年からの新規の結婚率は加速度的に減った。

根絶に至らなかったのは、愛情と信じたい。

相手に身も心も尽くすといった性的嗜好^{プレイ}じゃ、ないよな。

うちの親も結婚派だけど、そうは見えないし。いや、見たわけじゃないけど。

あう、人生経験少ないから、そういう機微は…

「そついうの分らない？」

そんな好いた惚れたなんて浮ついていられなかったからなあ、前世じゃ。

この世では、なんだ、その、そういう事に興味が無いわけじゃないし。

「うんうん」

なぜ、頭をなでる！脈絡ないぞ！

…………… 本当は、お嫁さんとか夢だったんだ。

そして、結婚という枷から解き放たれた女性がどうなったかといえ、多様な遺伝子を心向くまま子孫に取り込もう、という一派が現れた。

彼女らはある意味で宗教とも言える熱狂的な活動を行う。

その教義は「遺伝的多様性が子孫の生存率を上げる」であり、遺伝的多様性が少ない個体群が環境変化に弱いという客観的事実に基づいているので、誰も彼女らの宗教活動を非科学的と否定できなかった。相変わらず「知識人」は無思考に非難はしたのだが、まともな科学的思考のできる人間は沈黙するしかなかった。

歴史的にみてこういう運動は金銭的な問題で破綻することが多い。しかし、今回のそれは盟約により経済的なフィードバックを受けていたため、活動が破綻する可能性も無かった。これも想定していたのなら精霊の未来予測は恐るべきものだ。

当初は少数派だった彼女らは、まるで百円ショップで見繕うように男を、と揶揄された。

この悪意を持ったレッテルは、それを流した集団にとってはネガティブキャンペーンのつもりだったのだろう。しかし覚悟を決めた女は強し。「百円族」と自称しはじめた時点で軍配は上がった。むしろ男なんて百円未満とまで放言されて逆襲される。

かくして、彼女らは21世紀のヒーローとなり、市民権を得てしまふ。

更に懲りずに「專業妊婦」などと第二弾で抵抗しようとしたのだが、これがまたウケた。

百円族改め專業妊婦を名乗る女性が急増。今では專業妊婦が悪口として使用された過去を知る者は少ない。

なにしろ十年経ち、二十年経ち、五十年も経った今では、彼女らは連合し「專業妊婦組合」として超巨大な政治団体と化している。

：なにしろ十億日本人のほぼ全てが彼女らの「製品」なのだから、その影響力は推して知るべしであろう。

ああ、母は強し。

そんなわけで、妊娠にブレーキをかけていた経済的問題と育児コストは文字通りに粉砕してしまい、その結果は…えー、あー（赤面）
「保護者のおかーさんたちに、若い子いるねえ」

はつきり言うなよ！こっちは昭和マインドで、馴染めてないんだ
よーっ！

せっかく見て見ぬふりしてたのに！

ああつ、まだ高校生かそれ以下でしょあの娘！なんで幼稚園児の
子供が普通にいるのっ！

おかしいでしょ、おかしいでしょ、どう考えてもさっ！

ははは、おかしいわよね、おかしいのは自分？古臭いのね？

そうなのね…今は昭和じゃないし、正しいのは彼女らなのよ。

「おーい」

（ぶつぶつ…）そりゃ、あたしだって子供とか可愛いなーって思
うわよでもそれはもっと大きくなってから、いやおっぱいとかじゃ
なくそういえば皆おっぱいでかいわね、子供産むとでかくなるって
本当なのね、メラニン沈着とかもしてるんだろうなってなんでおっ
ぱいのこと考えてるのかしらあたしっいたらおっぱい星人のけでもあ
るのかしらほんとにでっかいわねあたしもおっきくなるのかしら大
きくならなかったらどうしよう聞いた話だとふくらみはじめた頃に
痛くてももみほぐすとおっきくなるとかじまんじゃないけど痛い
かたいがい大丈夫だからがんばろうかなでもいったい、何歳から子
供ほこぼこ産むようなあんなことこんなことやらかしてるのよ。こ
んなだから作者もR15とか18とかネタとしてアリじゃないかな
んて考え始めるのよやあね本当にへんたいな作者でこまるわあたし
どうされちゃうのかしらやだなんかちよつと期待しちゃってるかも
やだやだいやあのちよつとほんのちよつとだけなのになんであたま

からぬけないのよ（ぶつぶつ…）

（しばらくお待ちください）

かくして、この差別的制度は「平等」というオブラートに包まれて提供された。

「（あ、リブートした）」

陰謀論を疑われても仕方ないだろう。すべてが例の解釈を嚆矢としているのだから。

そして、この現状から、一番利益を得ているのは実は精霊だからだ。違うか？

何を引き起こすのかを念入りに検討して『目的』の達成に最適と判断したからだ。

「（実は僕等に入れ知恵した人がいるんだけどなあ…内緒だし）さて、その目的に関しては」

…あからさまに流したな。まあ、引つかかるほうが悪い。

目的は人口と多様性の拡大、ではなく、それも手段なんだよな。

ああ面倒臭い…

『精霊戦争』と『怪獣』と、特に『珠法士』を説明しないとならないからなあ。

正直、眉唾過ぎて信じられない。うちの両親の『仕事』にも関係するんだけど。

面倒だし話の流れで出てくるだろう、今回はパス。

「二度も本音が漏れてるよ、ハルハル」
何度でも言っぞ、面倒くさい。

#03 モテモテ？

どう見ても、ローティーンにしか見えない若々しい女性が手を振っている。

「あ、ハルハル、あれお母さん。綺麗でしょ」

ええ、とても綺麗で、若いですねえ。わんこちゃんのお母様。チエツクのマタニティも似あっている。

もうじきお姉ちゃんですか、わんこちゃんは。

「え？わんこもお姉ちゃんだよ。コウちゃんていうの。弟なんだ」
わんこちゃんからのワラシ経由の通信が届く。

赤ちゃんを抱いた妙齡の女性の画像。

抱いている方は、叔母様でしょうか。

「ううん、ひいお祖母ちゃん」

曾祖母で40前後：ですか。

お元氣そうでなによりですね。（棒読み）

#03 モテモテ？

すでに近接会話機能使いこなしているなあ、こんなことができるって知らなかった。

「そうなの？うちじゃ昔から、おはなしてこれだよ。

使わないと、うるさくてお話できないから」

聞けば、わんこちゃん家ってこの幼稚園くらい人がいるそうです？

……ああ、もしかすると。

そうそう、もしかしてわんこちゃんの家は専業妊婦ですか？

「うん、ひいひいお祖母ちゃんからずーっとね」

曾々祖母って…もしかすると百円族世代ですか。

サラブレッドですねえ、わんこちゃん。

「ハルハルのお母さんも綺麗ね。ハルハルんちって何屋さん？お兄さんとか何人？」

うちの両親は珠法士組合で働いていますね。兄とかはいません。

「え、ハルハルんちって珠法士さんなの。すごーい！

うちには、なった人いないんだよ」

珠法士研修所に受かるのも難しいですからね。素質に影響されま
すから。

「珠法士かあ。いいなあ」

おや、憧れますか？

「うん、かっこいいもん。珠法特捜官・杉田耕作、大好き」

人気のテレビドラマだ。でも主人公って40絡みのポツチャリ系で髪が薄くなってきたるのが悩みという。ああ、脇役の幸田警務官でしょうか、東大卒エリートでイケメンという役。

「ううん。耕作さん。可愛いよねー」

おおっと、さすがというか。侮れませんね。チョイスが渋いです。類染で、うれしそうな。

「初めての人って、あんな人にするって決めてるの」

あう、ま待ってください、何の初めてですか、何の。

「えー？決まって…」

はい、済みませんでした。聞いた自分が悪かったです。（汗）

ほほを染めつつ、はにかむ幼稚園児…舐めていました。サラブレッド恐るべし。

「でも、なれるひとつて少ないんでしょ」

現在の珠法士人口は20万人ですから、おおよそ五千人に一人ですか。

狭き門ですね。

「もしかしてハルハルも珠法士になる？」

なれませんよ、多分。珠法の素質は遺伝しませんから。

候補生になれる人ですら250人に一人と言いますし、難しいでしょうね。

しかし候補生であっても、その力は超常の名に恥じない。

珠法士にはなれなかったものの、その力で犯罪やテロ行為を行えば、一般人やワラシでは到底太刀打ち出来ない。

拳銃どころか対物ライフル・重機関銃といった大型火器ですら彼らに対しては足留めにしかない。生身で戦車と交戦すら可能だ。さらに第一級の珠法士ならば、大陸間弾道弾すら迎撃し無効化してのけた実例が、あつたりするのだ。

実際、自分の親が珠法士の一員であるというのが信じられない。

先の珠法特捜官とは、違法活動に手を染めた候補生崩れの取り締まりのため、珠法行為取締法により特別司法警察職員の権限を与えられて珠法士組合の選抜により派遣された珠法士の通称だ。

またドラマの中では地方警務官をトップとして組織された、候補生出身の警察官らによる珠法機動隊が登場している。実在するのか知らないけれど。

犯人をあくまで人として救いたいという主人公と、人以上の力を持った特別な存在としての自覚を求める警務官の対立と協調を横糸とした、人間ドラマが売りのテレビシリーズで、すでに何度も映画化もされている人気作だ。

「…続きまして、年長組のお兄さんお姉さんから、歓迎の…」

ムダ話をしている間にも式は進んでいたらしい。

まあ、幼稚園児に規律とかいきなり求める大人はいまい。ましてや無線を使いこなして、一見神妙にしているのだ。

「はい、杏子ちゃん晴海ちゃん、おはなしはお休みして、年長組さんからお花もらってね」

不意に入る誰かからの通信。あれ、どうしてバレた。

幼稚園の美咲先生というらしい「男性」からのものだった。

ハツとして注意すると、年長組の方々が花束持って入場してくるところだった。

三番目に歩いている女の子、花束を持つのに気を取られて注意が散漫に。

あ、まずいな。と思った時、とっさに身体は動いていた。

ゼンマイ、救急セットを。

「了解」

思ったとおり、足をつんのめらせて女の子が転ぶ。

前の二人を巻き込んで。

駆け寄ったあたしは、女の子から順に助け起こそうとして、…持ち上げられない。

こちらも幼稚園児じゃ当たり前か。

重いつつ。ゼンマイ、救助してくれ。

「了解。これキットです」

駆け寄ってきたゼンマイがあたしごとあつさりと女の子を助け出す。

湿布や消毒薬の入っているキットをあたしに渡すと前の二人に向かうゼンマイ。

「ハルハル、全員擦過傷規模。捻挫等の兆候は見られません」

おい、お前までハルハルか。まあいいけど。

この間、わずかに10秒。

・・・パチパチパチパチ

わんこちゃんがびっくりした顔で拍手してる。

先生たちが慌てて動き出す。救急セットはいらんかったな。

泣きそうになってる転んだ女の子に語りかける。

大丈夫、誰も怪我してないよお姉ちゃん。お花、綺麗だね。

お花は手作りの造花だった。彼女らが歓迎のために作ったのだろう。

潰れてしまつて悲惨な有様となつた花束に女の子の顔が…

あー。どうしよう。

とっさに奪い取るように花束を受け取り、抱きしめる。

ありがとう、お姉ちゃん。

わんこちゃん直伝のにはー！

泣きそうだった彼女は、何故か真っ赤になりつつポーンとした目で見つめている。

・・・パチパチパチパチパチパチ！

それ以降は何事も無く式は終わったのだが。

えーと、美咲先生から、ちょっとお小言の時間です。

「晴海ちゃんのしたことは偉いわ。でも、助けようとして転びそうになったでしょ」

うん、バツチリ見られてましたね。

「お友達に何かあったら、まず近くの大人の人に声をかけたほうがいいわ」

はい、以後気をつけます。しょぼん。

「ハルハル、かわいそう」

わんこちゃんが慰めてくれる。

「そうですね。春宮様は、あたしを助けて下さいましたわ。

とっても嬉しくて、感謝しきれません」

ええっと。このお嬢様は、先の彼女で野村聡子という。

何故に様付け？

「待つて待つて。違うの。責めているわけじゃないのよ。

助けあうことは素晴らしいわ。その気持は忘れないでいてね。

でも、まだ貴方たちは小さいから、貴方たちにできる助け方を考えてみてね」

……いや、言いたいことは分かりますが、幼稚園児には難しいのでは？美咲先生。

そついう教育方針なのかもしれん。

「かつこよかったわ、もしもハルハルが男の子だったら赤ちゃん欲しいくらい！」

わんこちゃん問題発言。ないない。

「いいえ、私こそお嫁入りしてもよろしくってよ」ガーン

あー、なんか話題がズレてきてます。お二人さん。
というか、あたしが旦那前提なのは何故だろう・・・
そして、今の「ガーン」はなんだ？

「春宮晴海！」

突然に呼び捨て！誰だ、と見ると。

・・・誰さん？

なんか、すごい剣幕で、年長の男の子が指を突きつけて声を張り上げる。

トラブルの臭いしかない。逃げたい。

「俺は上総弘毅。貴様に挑戦する！」

涙目で睨みつけてくる。

・・・えーと？またあたしを男扱い？腹立てていいよね。

『ハルハルも論点ずれてるのでは？』

・・・

さあ、女の武器発動。流れよわが涙よ！

まあ流れなくとも、この場合はOKだが！

・・・あたし、女の子なのに・・・貴様とか・・・

ポロツ

「あー、ハルハル可哀想」

「弘毅くん酷い！」

くくく、狙い通り。

女性連に非難されて上総弘毅くんはたじろいでいる。

美咲先生が呆れて仲裁に入り、弘毅くんは指導室に連行。ざまあ。

春告町立幼稚園の敷地は広い。

両親は説明会とかで集められていて、新入生は三々五々に遊具な

どを見て回っている。

前世ではあり得ない行動だが、ワラシがお供なので結構緩い。聡子ちゃんが案内してくれるというので、わんこちゃんと一緒に歩いていった。

しかし、繰り返し。春告町立幼稚園の敷地は広い。

情報として知っているのと、実際に歩きまわるのは違う。

「疲れたー」

わんこちゃんが早々に音を上げる。

いや、登り下りで数百mも歩くのは幼児にはキツイ。

「慣れておかないと、困りますわよ」

と、先頭を歩く聡子嬢は元気だ。未来の幼稚園児半端ねえ。

「わんちゃんのお散歩、かわりばんこですもの」

と、彼女は連れている犬を示す。

朝夕に敷地内を散歩だとか。園児が40人弱で4頭だから、10日に一度は回ってくる見込みだ。

情操教育の一環だろうが、情操以前に体力が付きそうだ。

「わんこ、わんちゃん好き がんばる」

体力を振り絞るも、足取りは覚束ない。

ワラシにおぶってもらったら？と提案するが、聡子嬢の笑みとあたしを交互に見て。

「がんばる」

なんか、張り合っているらしいや...

『モテモテ？』

単に張り合うのが楽しいのでは？

だって、こんなに懐かれる理由がないじゃない。

「夏には、ここでテント張ってお泊りしますのよ」

途中でへばっているあたしたちを気遣って休憩だ。ちよっとしたキャンプ場になっていて水道もある。

「わー、遠くまでよく見えるね」

見晴らし台があり、市街地側を展望できる造りになっている。
高い建物が存在しないため、30mほどでも遙か遠くまで一望だ。
一休みして、元気になったわんこちゃん大喜びだ。

「ちよつと、お水汲んで来ますわ。ハーヴェイを頼んでもよろしい
でしょうか」

ハーヴェイとは連れてきた犬だ。ミニチュアダックス。

水汲み…ああ、おトイレか。いつてらっしゃい。

「しずかだね」

わんこちゃんが呟く。

そつえば、家だとうるさいとか？

「家族多いから賑やかなの。こんな静かなの初めて」

昼間の太陽灯の下、風に吹かれてのんびり。

機械で作りに出されているが、木々の匂いを含んだ風は汗をかいた
身体を気持ちよく冷やしてくれている。

「こんにちは」

不意に声がかかる。

見ると、そこに居たのは二人の女の人だった。

黒い洋服と白い洋服を着た30過ぎくらいの女性。
式では見かけなかったが、関係者だろうか。

「こんにちはー」

わんこちゃんと元気に挨拶する。

「ん、ちゃんと挨拶できるんだね。いい子だ」

黒の女性が褒める。

『誰かいるのですか？』

んん？なんだゼンマイ。目の前にいるじゃないか。
ゼンマイが変なことを言う。

『誰もいません。私たちだけです』

ゾツと首筋の毛が逆立つ。ゆ、幽霊か何か？

わんこちゃんがギユツとしがみついてくる。多分ワラシから同じ事を言われたのだろう。

ふふふ

「ああ、怖がらないでいいよ。何もしやしないから。

ねえ、「中矢」晴海ちゃん」

！！！！！！

どうして、その名前が！

「あたしらは『神様』…みたいなものだから、ね。

ちよつとした悪戯心なのよ」

白い『神様』が囁く。

「贈り物があるの」

黒の『神様』が囁く。

身構える暇もなく、白い『神様』はわんこちゃん、黒い『神様』はあたしの額にそつと指で触れた。

「あなたたちには期待してるわ。」

気づくと、すでに展望台には二人の姿は無い。

「す…」

わんこちゃんが呟く。

「すごい、今の人、幽霊？初めて見ちゃった」

がくつと脱力を感じる。

「でも、なかやはるみって誰？」

わんこちゃんも聞いていた…ということは夢じゃない？

何が起ころうとしているのか、あたしにもサッパリであった。

【あたしたちとは関係ない場所での記録】

北315群付近にて哨戒中の第122-72-39哨戒機が、真珠規模の珠法反応を検知。

検知記録時間がマイクロ秒ということもあり、計測器の誤作動と推定。

規定に従い、当該哨戒機は装置点検のため帰投。予備機はすでにカバーに入り問題なし。

#03 モテモテ? (後書き)

【本編よりも長くなることもあるかもしれない後書き】

ストーリー配分が適當すぎるこの小説ですが、入園式編の後編でした。

「前編が幼稚園に着くまでと、わんこちゃん。後編がわんこちゃんの男性の趣味と、伝説となったハルハル。ですな」

なんの伝説なのか、ちょっとコワイのよ。

聡子嬢、あたしの手握ったまま動かなくなるし。

他の年長組さんも、口あけたまま固まってるし。

うちの両親は苦笑い。

「さて今回は本編で説明入れてるからサラッと流せるね」

というか、初めて珠法士関係の解説入ったのに、かなりスルー気味。

わんこちゃんの趣味にインパクト取られてますね。

というか！もしかして転生モノの定番の神様登場？

神様スルーってあらずじ的にはどうなのよ。

珠法特捜官・杉田耕作。

作者は設定作りつつ、これマジ面白くね？とか思ったとか思わなかったとか。

ちなみに現在放映中の第五シリーズは、珠法犯罪組織バロックによる珠法士組合への工作により彼らの息のかかった珠法士が珠法捜査官として選抜され暗躍を始める。珠法捜査官・宗像一郎の仕掛けする悪辣な罠により杉田耕作は公安委員会の査問に掛けられることになる。幸田警務官と珠法機動隊はこの危機から耕作を救いだすことができるのか？また、珠法士組合に巢食う獅子身中の虫をあぶり出せるのか。という内容に…

「また単なる思いつきで、いらない設定増やすし」
いっぺん痛い目にも合わないかしら、作者。

美咲せんせいですが…初めの予定では女性でした。
・・・君は泣いていい。

ちなみに、彼はあたしらの様子から不審に感じ、近接通信の通信ヘッダをモニタして、二人がおしゃべりしていると判断しました。話の内容までは暗号化されているため知りません。彼は幼稚園のシステム管理者も兼任しています。

珍しく、短いあとがきですね。
「そろそろネタ切れでしょうか」
でしょうね、いくら何でも詰め込み過ぎなんですから。

「そういえば、執筆時には#02と#03はタイトル違っていませんかでした？」

ああ、例の「歌詞の無断転載に関するお知らせ」で「こりやまずい」と変えたそうよ。

しかし、そのうち「貴方はもう忘れたかしら？」とか書いただけで著作権！とか言う奴が出てくるんじゃないかと心配。

#04 驚異！幻の白黒女を春告幼稚園に追え！！前世紀の怪物は実在した！！

【ある波紋】

彼女が報告を受けたのは、それが起こって暫く経った日であった。それは氏族関連企業の運営を任せた孫から来た定期的な報告に添付された、単なるコメントに過ぎなかった。

幼稚園に通う彼女の来孫きしやこが不可思議な体験をしたという。そんな幼児にありがちな妄想。

さる理由から注目していた部門からの報告とはいえ、それを観たのは多分に偶然であつたのだが。

ナカヤハルミ

これは……………放置して良いものだろうか？

下手に嘴を突っ込めば「あの一族」の逆鱗に触れかねない。

それは半端な力しか持たない我々にとっては致命傷だ。

かといって、知っていて黙っていた。

万が一にも露見した時にそう受け取られることも不味い。

伏せていた、その目的が敵対意図と受け取られたらお仕舞いだ。

数年前の光蓮寺家の事件とその顛末は表立っていないものの、かなり有名である。

そのキーワードとして聞き及んでいたのがナカヤハルミ。すると今回は、その事件の余波だというのか？

不味い不味い。これは本当に不味い。

とんでもない事態に巻き込まれてしまっている可能性が高い。

彼女は放置を諦め。かの一族、春宮家に連絡する準備を始めた。

#04 驚異！幻の白黒女を春告幼稚園に追え！！前世紀の怪物は実在した！！！！

入園式からしばらく経ったある昼下がり、わんこちゃんが提案しました。

「探しましょう！」

わんこちゃん、目的語がありません。

「あの白と黒の幽霊さん！」

放っておくという選択肢はNG？

「お母さんもお姉ちゃんたちも、誰も信じてくれないのよ」

そりゃ、証拠も何も無いですし。

「よし勝負だ！ハルハル。先に幽霊の証拠を見つけたほうの勝ちだ」

あー、分かりやすく残念な人が来ました。

「ならば、受けて立ちますわ」

聡子嬢が宣言。えっ、という顔でシヨボる弘毅君。

なんか、あたしが居なくても自動的に話が進んでいく気がします…

春告幼稚園は園児の数が少ないためでしょうか、現在は学年別ではなく縦割りの編成となっています。モメ事のあった関係園児を同じ組に入れたのは、とにかく早々に顔見知りとなったのを幸いとしたのかもしれませんが。問題児くくりじゃないよ…ね？

「先輩、私たちがお手伝いしますから、気を落とさずに」
弘毅君に助力を申し出たのはたすくちゃん。

彼女はわんこちゃんの従姉妹です。

「たすくちゃん…頑張るよ、俺」

「たすくん、手伝ってくれないの？」

「だって、こっちの方が面：大変だから。」

たすくちゃんは、直情径行の気がある弘毅君に興味がある風で、面白がつて焚きつけにかかっているのですが、面白がるということはありません…

「たすく。漏れてる。漏れてる」

たしなめる彼は菱風洋平。たすくちゃん専用のツッコミ装置です。母親は如月家系列企業に務めているということで、保育所からのコンビで息がバッチリです。

「あ、あたしも…手伝っていい？」

洋平君の袖を引っ張っているのは野村真由。聡子嬢の妹です。おとなしめな感じですが、その実かなり洋平君には積極的で、実はイケイケではないでしょうか。

「うん、一緒に探しましょう」

「うん！」

仲間に入れてもらえて、うれしそうです。

洋平君と言えば、たすくちゃんを甲斐甲斐しくサポートしますが、他の面々にも配慮を欠かさない卒のなさで、真由ちゃんを拒絶するような真似は見せません。現世日本だと、男の子はダメじゃないとやっていけない風ですが、彼のマメさは尋常ではありません。大人になる頃には彼の遺伝子はあちこちに伝搬していそうです。

野村姉妹の祖母は、この幼稚園の園長先生で、時々視察に来てはため息を吐き、胃をさすっています。

特に神経質なタイプにも見えないのですが、…あれ？やっぱり自分ら問題児？

しかしなんでしょう、この人間模様。レベル高すぎじゃないでしょうか…？

君たち、中には小学生か中学生が入ってませんか？

幼稚園児って。こう、もっと素朴なものを期待していたんですがね。

前世では気づいていなかったただけですか？

早くも周回遅れの上に、置いてきぼりになっている気がしてきました。

ハッ！リハビリ。リハビリ。リハビリ。リハビリ。

じゃあ、がんばろー！

「おー」

一応、担任の美咲先生には園内の散歩に行ってきます、と伝えておきましょう。

幼稚園は、お遊戯とか音楽とかの授業以外は基本的に自主学習です。

そのため、飽きもせずブランコに乗るもの、砂場で何かしら作っては壊し作っては壊しするもの、怪獣ごっこで正義の味方に退治されることに無常の喜びを見出すもの、と個性豊かになっています。

またワラシと御庭番により児童の安全配慮義務が緩和されているため、かなりの自由行動が許されていますので、園内ならばどこに行くのも問題はありません。

もっとも、危険等発生時対処要領に対しての厳格な監査による、施設等の安全管理への信頼があつてのことですが。

展望台を探してみたものの何の痕跡も見つかりませんでした。もとも他にあてのある調査ではないので、早くも頓挫しつつあります。

結果、例によって軽くピクニック気分で園内を散策して回る事になっていきます。

幽霊騒ぎは、わんこちゃんが熱をあげているため広く知られていて、ちよつとしたブームのようで、何組かの集団がキョロキョロと探し回っていたりします。

怪奇話は本所七不思議などを引き合いに出すまでもなく、いつの時代も格好の話のネタです。噂の当人が他人ごとのように言うことではないでしょうが。

「あ、綺麗な石はっけん」

わんこちゃん、既に飽きていますね。

緑がかつた石を得意げに持ってきます。爪の先ほどの八面体です。
「まあ、綺麗」

聡子嬢が食いつきました。さすが女の子ですね。

…いや、あたしも女の子だったのです！十七年ほど女の子やつてる割に女子力つきませんね。ふう。

石はガラスでしょうか？いえ、ワラシの拡大視覚でも擦り傷すら見えませんので石英よりは硬そうです。自然石にしては形が綺麗すぎるように感じますし、多分何かの部品の一部だったものじゃないかと思います。

「落としてしまうといけませんね。そうだ、これに入れたらどうでしょう」

ゼンマイに持たせている装備品から小ビンを渡します。透明なガラス製バイアル瓶で、このような標本の保管には最適です。

慎重にその中に石を落とすと、コルク栓をはめて完成します。口をリボンで縛れば完璧なストラップなのですが、さすがに所持していませんのでタコ糸です。

「わーい、ハルハル、さんきゅっ」

ん、可愛いですねわんこちゃん。

聡子嬢の冷ややかな視線が…ハッ、無意識に頭をなでなでしていました。

あわてて手を退けると、わんこちゃんが残念そうに見ています。聡子嬢の視線に気づいて、ニマッと笑ったのを「見逃し損ね」ました。

あわわわ、黒い、黒いです。何故？

ついぞ忘れ果てていましたが、現場百篇という言葉があります。なんとなく「勝負」を挑まれたため、適当に流そうとか思っていたのですが、聡子嬢が気づいてしまいました。

展望台に向かった我々を待っていたのは、弘毅君パーティでした。「上総様たちは何をなされているのでしょうか？」

若い男の人が何かの機械をセッティングしているようで、それを見ているようです。

あんな機械を一体、どうやって持ち込んだのでしょうか？と近づいてみると。

工事標識

工事名：機械警備機器監査工事

実施期間：2066/04/07～09

請負業者：上総警備保障（株）

うわぁ…

「ああ、おばあさまが話していましたわ。」

警備を委託している上総様の御実家から、設置機器の検査の申し入れが……」

弘毅君ちは警備会社なのですね。

ケーブルを引いていた若い人がこちらに気づきました。

「若、ご友人です」

若？あわわ、弘毅君の実家は「その筋」なのでしょうか？

はあ、家で幽霊の話をしたら、オオゴトになったと。

機器の不備ではないと証明する営業活動なんですか。お仕事ご苦労さまです。

「いえ、幽霊なんて久しぶりのイベントで、皆も面白がっていますよ。場所が学校じゃなかったら総出で押しかけそうです」

二十歳そこそこの若い社員さん、夏水さんという方です、彼が屈託の無い笑顔で答えます。

「十年も経っていないコロニーなんかで因縁話なんてこともあるわけ無いんですが、この手の話は見逃せませんからね」

設置している機器はマルチセンサーで、そこから社のサーバに送られているデータに皆でかぶりついているそうです。

「天城さんまで「俺がちょっと見に行くよ」とか乗り気なのが驚きだよ」

天城さんという方は工事責任者として看板に書かれている方のようです。

「腰が重いですからね相談役は。でも俺らには分からないけど、何か気になることがあるんでしょう」

「天城様まで居らっしゃっているのですか？」

聡子嬢まで知っていると、その人はかなり有名人なのでしょう
か。

「平成の小泉勝三郎とまで言われる、ウチの相談役でさ」
誰でしょうそれ。

「ご高名はお聞きます。お会いするのは初めてですが」
洋平くんも知っているそうです。如月家からも知られているので
すね。

「今、園長先生に挨拶に行ってますが、そろそろ。お、噂をすれば」

「坊ちゃん、お待たせしました。おや、お客人ですか？」

背広を着た若い男の人がやって来ました。かなりのイケメンでは
ありますが、どこことなくうちの父ちゃんを思い出してしまうのは何
故でしょう。残念気味です。

「失礼しました。坊ちゃんのトコで相談役をやらせて頂いています、
天城と申します。」

「……どうかしましたか？」

「ご丁寧にどうも。相談役と聞いて年配の方を想像していました。」

「それでも、かなりの歳なんですがね」

笑ってそう答える天城さん。夏水さんと大して変わらないように
見えます。

「では、始めさせて頂きます。夏水さん、記録の準備はOKですか
？」

はて、もう調査機器の設置は終わっているのでは？何か作業があ
るのかな？

「天城さんは珠法士なんだ」

自分とわんこちゃんの目が真ん丸になったのが判る。

コロニーを闊歩する宇宙時代の魔法使い。

その一人が今、目の前に！

「ハルハルのお母さんたちは？」

「素で忘れていました。あれはノーカンでひとつ。」

「春宮さんの親御さんに比べたら、とんだチンピラですよ」

うちの両親の知人でしょうか？

「お噂は常々」

なんなんでしょうかね、うちの親は。

さて、平成一桁の前世には珠法士などという職種は存在していませんでした。これは確かです。では、歴史に初登場したのはいつ？
といえ、言及を延ばし続けてきた精霊戦争について説明する必要があります。

ちよつと長い話なので大幅に要約してしまいます。

1990年に地球に墜ちてきた怪獣が暴れまくった挙句に日本にカチコミかけたところを、どこから来たのか謎に包まれた存在であった精霊機構が要撃し撃退に成功。その二年後に怪獣と精霊機構の戦闘中に米軍が核攻撃。怪獣と米軍に挟撃された格好となってしまった精霊機構を救ったのが、名前は知られていませんが最初期の珠法士でした。

精霊戦争と呼ばれる事件に関してはまだ半分なのですが、珠法士という存在が歴史に躍り出た、これが最初です。

天城さんが展望台に一人、風を愉しむかのように立っています。
「観客がおおくて緊張します。ちよつと芝居がかってますが、笑わないでください。」

恥ずかしくて死にたくなります」

軽口を叩いたあと、おもむろに目を閉じて、作業を開始します。

「珠法行使責任者、上総警備保障株式会社相談役、天城宗一郎。

珠都種免許権限による請求、珠法行為取締法における業務目的特例措置申請。

作業内容、二種珠法行使。精密空間遡行探査。

作業範囲、12万5千立法m、1500ミリ秒」

作業が始まった模様です。いえ、この口上は呪文とかではありません。

珠法士の作業は、厚生労働省令改正労働安全衛生規則により、「事業者は、珠法作業の行使については、あらかじめ、当該作業に関する合図方法を定め、かつ、これを関係労働者に周知させなければならぬ。」と定められているそうです。そのため、ワラシ経由で電子申請しつつ、周囲の人間にも作業中である合図として伝えるのが目的の口上です。

個人として破格の潜在的戦力を持つ珠法士は、このように生活圏内においては色々な制約が課せられています。

『工事演習申請中。しばらくお待ちください』

脇に控えているワラシが作業監査役を務めています。

『工事演習申請受理されました。申請受付番号は2066-04-08-012-V』

「工事演習申請受理確認。申請受付番号2066-04-08-012-Vを根拠とし、標準手順書に従い、作業を開始します。5m以内には立ち入らないように願います。

法定安全距離内の安全確認」

『法定安全距離内の安全よし』

「保安術式、疑似構成水準まで解除：3・2・1・実行。

疑似構成開始。定盤構成、治具構成設置。実構成部品配置。……

……。固定。

導通試験準備」

雰囲気が変わり、緊張があたりを包みます。

「閾下展開20ミリ秒。3・2・1・実行」

チ、という音が一瞬、身体に響きます。

『…珠法反応観測報告。誤差の閾値以内と確認』

「疑似構成による保安術式への負荷水準も既定値。本工事申請」

『本工事申請中。しばらくお待ちください』

『本工事申請受理されました。申請受付番号は2066-04-08-012-R』

「本工事申請受理確認。申請受付番号2066-04-08-012-Rを根拠とし作業を開始します。

擬似構成を拡大展開。3・2・1」

ギン！という、振動が辺りを通り抜けました。

その振動は一瞬だけで、代わって音が柔らかく私たちを包みます。

「綺麗な音…」

たすくちゃんが、うつとりと呟きます。

空間が音を鳴らしています。これは音なのでしょうか？

辺りだけではなく、体の中からも響いています。

これが、珠法？空間探查って言っていましたか。

「珠法は因果律に干渉する技術です。精密空間遡行探查は物質や空間の根底にあるスピノフォーム。そこに蓄積されている情報を、因果律を操作することで復号する術です」

ゼンマイが解説してくれる。

因果律操作なんて、物理学を軽くブツちぎっています。

「物理世界の住人である一精霊（僕等）には、理論上は真似ができません」

「あ、ロボット」

わんこちゃんが呟きます。

ロボ・ット？

視線につられて見上げます。これは…確かにろぼと…ですね。見るからに。

展望台に覆いかぶさるように浮ぶ全高にして20mほどの人型です。あれ？こんな大きなもの、なんで影が射してないのでしょうか？

「市街地に珠戦騎…だと？」

天城さんが呆然としています。何か知っている様子です。

その姿が見えていたのは数秒で、急速に薄れて消えていきました。

いつのまにか音も消えていましたから、術が切れたのでしょうか。

「運輸省、いや、警察庁に通報」

『春告町への搬入許可証が送付されてきました。関係各所の署名を確認』

即座の返答に絶句しています。

なんでしようか、先程までの威厳が台無しっぽいんですが。

「ぐ、ふざけた事を…気に入りませんね」

口調が戻りましたが、あれが地に思えます。

「ふむ、嫌がらせで航空局にクレーム出しといってください。制限表面違反か何か」

「相談役、なんだったんですか？アレは」

「あれは、珠法精霊機もしくは珠戦騎って呼ばれてる機体です。

…通報してみましたか？公務だそうですね」

「兵器なんですか？公務？」

確かにいくら何でも公務って無理がありますね。見た感じ超兵器じゃないですか。

「かつこいいねー」

わんこちゃん、脳天気さにシビレルわ。

「…いや、あれは名目上は兵器じゃないです。武装はありません。

あくまで珠法士の装備品。マスタースレーブ制御の」

珠法士のお洋服なんですか。大きすぎませんか？

「実のところ言えば、でっかいワラシってところです。アレは「ワラシなんですか？」

各自、自分の相方をしげしげと見つめる。

「わさび、あれになれる？」

「いや、嬢ちゃん」ナイナイ。

「滅私奉公モードとは違って専用の機体だから無理ですよ。

問題はあれは「珠法士」の装備品ということです。

いったい珠法士が春告町でどんな用があるんでしょうかね？」

皆が一斉に天城さんの顔を見ます。

「まてや、俺のことはいいんだよ」

慌てて地が零れてます。この人も、自分が珠法士って忘れる性質なんでしょうね。

「きな臭いことにならなきゃいいんですが…」

…そうか。あれに乗っているのは珠法士なんですね。

そして、あれに乗って「来なければならぬ」理由。それが問題ということ。

「ご明察。町中で戦車を見たような物ですからね」

天城さんがビクリした顔で見ます。言葉の裏を察する幼稚園児

…当然ですか。

でも、振つといてなんでしよう、その反応。

「天城さん、戦車って何？」

「おや若は知りませんか？大昔の兵器ですよ。自分も見たことはありませんが。」

相談役はそういうの詳しいですよね」

戦車が市街地に…怪獣でしょうか？

「怪獣なら、外でしょうね。何を考えてるのやら？」

まあ、いずれ判るでしょうさ。目の前で相談して見せているわけですから。

筋モンには、筋モンらしい交渉といかせて頂きます」

と、ニヤリと悪そうに笑うと天を指さしてみせた。

不穏な事件はありましたが、弘毅くんチームと別れて、散歩を再開しました。

「ところで」

聡子嬢が切り出します。

「幽霊さんは、なんで現れたのでしょうか？」

「うらめしやー？」

あたしたち、怨み買うほど生きてませんし。

「何か伝えたいことがあってでしょうか？」

贈り物が、とか言っていましたね。

「呪いをふぉーゆー？」

なんで、わんこちゃんアグレッシブなのでしょう。ちょっと嬉しそうです。

それにしても幽霊さん胡散臭さすぎます。

わんこちゃんは楽しんでるようですが、あたしは残念なことにその域まで達していません。

中矢晴海がどうのこうのなんて、幽霊が言うことでしょうか？

幽霊なんてものは、わんこちゃんの言うように、恨み言でも言うてればいいんです。

おそらくは何らかの方法で、ワラシかあたしらの感覚器を騙したのでしょね。

精霊の上手に行く集団？どのみち、途轍もないトラブルの種に間違いません。

神様みたいなもの。そう言っていました。意外と的を得ているのかもしれない。

不意に悪い想像が浮かびました。

ワラシに口止めできる存在。という可能性です。

先程のロボットもそうですが、権力が相手では黒も白になるものです。

できるなら早いこと、縁を切りたい…

「おやおや、嫌われてますね」

誰かが呟いた。見回してみたが誰も見当たらない。

「誰か、今…」

聡子嬢が不安気に身を寄せてくる。

わんこちゃんも張り合って擦り寄ってきます。

「どうも、初めまして。訳あって名前は明かせませんが、怪しい者ですね」

どうやら足元のようにです。視線を下げると、そこには。

「にゃんこーっ」

猫です。黒白猫で、足先が足袋を履いてるように白い奴です。

わんこちゃんが飛びつきました。躊躇ありませんね、いつものことです。

「うゝ、重い」

「やめてください。無理ですつてば。私、20Kg近くありますよ。あ、そこやめっ」

抱きあげるのを諦めて、もふりモードに突入です。

幼稚園の犬猫全てにこれをやらかして以来、彼らから距離を置かれています。

怒涛のモフモフ。わんこちゃん、溜まっていたのかもしれませんが、でもすごいですね、未来世界。しゃべる猫がいたとは盲点でした。20Kg?サイボーグ猫でしょうか?

「な、なんですか?しゃべる猫なんて初めて見ましたわあれ?」

「精霊みたいなものです」

またですか。「みたいなもの」が流行ってるのですか?

「よし。足袋履いてるからタビ。たーちゃん」

では、たーちゃん。何の御用でしょうか?

「え、名前即決ですか」

何か問題でもあるのでしょうか?

「主張しないと、流されますわよ」

聡子嬢がたーちゃんに耳打ちする。

うんうん。流され度暫定一位のあたしが保証しましょう。

ふむ。では君は『魔法の国』から『女王』に遣わされた『精霊』だ。

「そう。驚くべきことは、その認識が何一つ間違っていないことです」

なんか疲れている様子に見えます。猫ですし。
わんこちゃんの拾ったこの石。これを持つ者が次代の『女王』です。

.....

「ひたたた！無表情に無言でヒゲを引っ張らないでください」

で、なんですか？夢でも集めるのですか、愛でも集めるのですか？

「ただのスカウトです。って。あう、これ拷問ですよ。拷問」

拾い物で女王に当選なんて、どこの世界にありますか！

「はて、貴女は運命というものの理不尽さがわかりませんか？」

真顔（猫の真顔なんか初めて見ましたが）で聞き返してきました。

「そんな訳ありませんよね？運命は現象であって、理屈じゃありません」

「春宮様？」

聡子嬢の声も耳に入らないほど動揺しているのが自覚できる。

耳には入っているのだが、優先度が引き下げられて反応できない。

こいつは、あたしの前世を知っているのか？

今の生活が楽しく夢のようで、

夢のような時間は、何の裏付けもなく、ただ与えられただけで、
だから、

運命という理不尽には容易く…

#04 驚異！幻の白黒女を春告幼稚園に追え！！前世紀の怪物は実在した！！

【本編よりも長くなることもあるかもしれない後書き】

『ところで、色々登場人物増えてきましたね』

もう登場人物は？

『ハルハル…ご両親は？』

素で忘れていました。まだ増えるそうです。

オマケに口調の管理がへボすぎて、ゼンマイが丁寧語使ったり天城さんが女口調使ったりと、もう混乱の坩堝。

『作者の仕様です、スミマセン』

菱風家は如月家の配下の氏族で、母親は如月系列企業の幹部をやっているという。

彼らの関係をみた感じでは、かなり自由な家風のようなのだが、テレビのドキュメンタリーでの情報によれば、氏族によってはかなり厳格な上下関係を求められるらしい。

問題は、前世社会はおおっぱらには強大な権力は持ち得なかったのだが、今世社会では人数に直結した権力を精霊が与えてしまっていることだ。

権力が理念ではなく冷徹な数の論理に左右されるため、マイノリティは数が少ないがゆえに悪であるという民主主義の暗黒面が蔓延しつつあることが、弊害の一つ。

そしてローマを見ても判るように、民主制というものは容易に寡頭制そして君主制にひっくり返るのだ。

厳格な上下関係、つまり身分制度を導入しようという動きが、そ

れを表している。前世で想像していた未来とは違い、まさしく封建制だ。民主的に選ばれた専制君主。民主的に正しい奴隷制度。

権力は腐敗する。絶対的権力は絶対的に腐敗する。

いかに技術的に豊かな社会が実現しても、人間は楽園には帰れないらしい。

うわあ、ナニコレ…香ばしいですね。

『うん、初稿だね。この辺書いてて、作者はへそ噛んで死にたくなつたという黒歴史』

どこら辺がコメディの設定なのかと小一時間。

『コメディ苦手するのは才能がないってことだ！と転がりまくっていたよ』

そうよね海賊課シリーズとかは、まるきりSFなのにコメディしてますし。

大体が神林先生に張り合おうなんて、何という身の程知らずでしょうか。

『モノローグ部分の文体がコロコロ変わって定まらないレベルじゃ、お笑いだね』

…それはあたしへの当てこすりでしょうか？ゴゴゴゴゴ

ところで、後書きこきに書いてあるってことは、この設定はガチで基本設定なのですね？

『大マジです。作者は、この体制の帰結として、かなり蓋然性が高いと見てます。』

誰かから与えられた義務を果たすことばかりが賞賛かつ保障される社会で自由でいることは難しい（…）ってね。作者は技術の進歩が自動的に人を自由にしてくれるなどというのは、戯言だと考え

る類の人』

君達は自由とか平等とかの味方じゃないから、放置どころか煽り立てていますし。

『ふふ、僕達は競争のための計画しかしてないよ。より豊穡な自然みたいなものさ。』

それを煽り立てているとは心外だなあ。誰のせい？』

悪魔の言い分に聞こえますが、何故でしょう。

『でも、所詮は未来予測。まだそうはなっていない。』

それは、とても重要な設定だよ。

と、作者が言えと』

そう思うならば、本編で書けと。

『ごもつとも。でもまあ、元々日本人は『自由』に向いてない奴隷根性の民族だし、いいんじゃないの？』

わーわーわー、黒い発言禁止！！！！

『国家の階級制度の中に組み込まれない職業や、固定的な所得への権利を伴わない職業は、地位の低い、むしろみつともないものと見なされるようになったら、そこでも多くの人が経済的保障より自由を選び続けるだろうと期待するのは、虫がよすぎる話である』

(F・A・ハイエク『隷属への道』 西山千明訳・春秋社 p・170)

しかし…幼稚園児にこんな考察させようなんて、作者は頭沸いてます。

前世を勘定に入れても、まだ高校生ですよアタシは。

『もしかして、それがチート能力？』

まさか。webやら書籍やらを処理能力に任せてピックアップ、

もつともらしく話してるだけですから。そもそもこれってワラシの得意技でしょ。

知識なんてものは知恵が無くちゃ意味はないわけで。今となつては知識なんてＩＴで機械化できる安っぽいスキルときているわけで。結論、そんなシロモノに大した価値があるわけないですね。

『全日本人に平等に事実上無限の記憶力と情報処理能力を貸与しているからねえ』

各種の試験でも参照物規程は廃止。外国語もそろばん教室と同じで趣味の世界。

『今の資格試験って記憶問題が無くなっちゃったから、受験生より常設の採点機関職員のほうが人数多いんだよね』

『ナショナルジオグラフィックニュース2011/08/23に、MITの開発している新薬で『複数のウイルスに効く新薬開発』との記事が』

これって石化反応と似てますね。

『ネタとして被ってるから、先に書けたんで作者はホッとしてる。』

『まさか実現しようとは！セーフ！セーフ！』とか。

まあ、ウイルス感染したらアポトーシスする機構つてのは元々細胞にあるから、そんな目新しいアイデアじゃないし。でも、発想はそうでも実際に現実化しようという努力には頭がさがるねえ』

さて、精霊戦争ですが…

初期原稿では、やはりディテールが無駄に凝ってますね。

おまけにゼンマイが解説しつつ、アタシがツッコむというスタイルが守られてなくて読みづらいし。

ま、いいか。

1990年12月に、地球近傍を通過する一つの小惑星が発見されたのが、事件の始まりです。小惑星はアポロ群のものでしたが幸いなことに、地球からは1000万Kmほど遠くを通過するものでした。幸いというのは、その小惑星は大きさ300m弱と小惑星としては小ぶりですが、衝突すればTNT換算にして500メガトン。これはソ連の開発した爆弾の王様の10倍もの威力だったからです。しかしそれはぬか喜びに終わります。その小惑星の軌道が、計算からずれ始めたのです。観測結果は二転三転。翌年1月にはもはや疑いようのないほど地球に近づきつつあり、為す術もなく（というか元々どうにもならなかったのですが）とうとう、1月15日早朝にペルシア湾クウェート沖100Kmに到着します。

その頃、そこでは前年にクウェート侵攻を起こしたイラクに対し、制裁が企図され、多国籍軍による部隊展開が進行していましたが、落下予想地点が判明したため作戦は一時中断、一時退避して様子を見ることとなりました。場合によってはクウェートのみならず交戦相手であるイラクへの人道支援も検討されたほどでした。

しかし、時刻になっても各国の地震観測所は落下を示す振動は検知せず、おかしいことにイラク軍は多国籍軍と交戦中とのイラク国営テレビの報道に、首を傾げることとなりました。

16日には全ての多国籍軍の所在が明らかとなり、全軍は待機中であるという確認が取れましたが、相変わらずイラク国内は大混乱。ホワイトハウスとの協議の結果、クウェートに強行偵察を行った米軍の見たものは、イラク方向に続く巨大な破壊痕と、跡形もなく瓦礫と化したクウェート市街の姿でした。

イラク国内へと向かう破壊痕を追って米軍は航空部隊を派遣しま

すが、これが戦闘機のみならず早期警戒管制機までもが相次いで撃墜されるという事態に発展しました。

しかし、撃墜までに撮られた映像は敵の姿を世界に送り届けました。

巨大な山がイラク軍を踏みつぶして進む様を。

これが怪獣、現在は黄泉津醜女と呼ばれる種類の自律戦闘個体との初遭遇です。

何故黄泉津醜女？と思いますが、精霊機構での識別名がそうなっている。

『彼らがそう名乗ってきたんだ。ご丁寧に Unicode 符号のストリームで、おまけに日本語…それもあって、あんな事件にまで発展しちゃったとも言えるね』

「あんな事件」とは、精霊戦争の後半の展開だったりします。

怪獣は時速150Kmでイラクを縦断、サウジアラビアをかすめてヨルダンを横断し、さる宗教遺物を大地に返した後に地中海へと姿を消します。

マルタ島沖でフランス、スペイン、ポルトガル、イタリアの連合海軍、ジブラルタル海峡ではNATOの連合軍が怪獣を捕捉し、攻撃を仕掛けますが戦果は無く、結局大西洋に逃してしまいます。爆雷すら物ともしない存在に打つ手なんて無いですね。

深海五千メートルに逃げられて、そのまま行方知れずです。

その後、しばらく怪獣は消息を絶つのですが…5月、日本近海に出現します。

えーと、お約束の展開？なんで日本？それも空気を讀んだか、千葉県浦安沖。

千葉県の某東京遊園地の沖合いに現れた大怪獣。それを迎撃したのが精霊機構です。

怪獣並みの巨大潜水艦で登場するや、多国籍軍すらものとしなかつた怪獣を一蹴してのけます。

…東京湾って遠浅ですよ？何故にどうやって潜水艦？

『平均水深15mですしねえ。』

国民的怪獣って、品川まで匍匐前進してきたんでしょ？

人間に換算すると50cmくらいの水深ですよ。

ちなみに黄泉津醜女は三浦半島から悠々と歩いてきました。

僕等は海底にへばり付いて待ちぶせしてました。んで再構成で出現』

まあ、実のところお互いに決め手に欠けて勝負にならなかったようです。

突き刺しても吹き飛ばしても、どうにも倒しきれないのではさもありなん。

勝負は二年後、第二次ミッドウェイ海戦で果たされます。

この戦闘。どういう経緯なのか、ミッドウェイで両者は激突します。そんな場所での会戦が、何故に知られているかといえ。

『偶然にRIMPAC93を行っていた自衛隊・米軍がこれを捕捉、B83が二発使用されて一発が直撃したんだよね』

それって、どう見ても偶然じゃありませんね。

『これで問題だったのは、黄泉津醜女よりも我々に多大な被害が出ちゃったこと。』

対放射線防護の性能に差があつたんだね。おそらくは知られていないけれど、二年間の空白時期にどこかの軍が核攻撃を仕掛けて、仕留め損なっていたんじゃないかと推測している。直撃した核爆弾は黄泉津醜女に貫入爆発したのに、相対していたこちらが大ダメージとは恐れ入ったもんだ』

大ピンチですね。もはや風前の灯な精霊機構の戦闘艦。

『そこに偶然に、珠法士が助けに入ってくれた。珠法士の因果干渉能力による攻撃で、黄泉津醜女は完全に機能停止して、大勝利』

それって…偶然ですか？

『偶然』

そうですか。

かくして、精霊は珠法士と巡りあったわけですね。

『そうそう。これが精霊戦争の前半戦の経緯ね。』

めでたしめでたしとなれば良かったんだけど、91年に怪獣の脅威を煽りたてて、某国の大統領が改選を乗り切ったとか、説明に入っていない伏線もあって後半戦スタート』

存命の人物ですし、名前も変える予定だとか。ヤブイリ大統領。後半は年表的な戦闘はあまりありませんね。ペラっ

『まともな戦闘になりやしないよ。大きかったのは東京封鎖事件くらいかなあ』

事件扱い…事変じゃなくて？

『さて、後半戦。今まで引つ張ってきていた設定の大開放』
本編に説明入れる隙間が見つからなくて、諦めたという。

『第二次ミッドウェイ海戦は、精霊と珠法士が勝者となったわけですが、これで収まらなかったのは某国です』

世界の警察が、民間人に出しぬかれた格好ですもんね。

『ミッドウェイからひと月後の93年8月。某国からの大量破壊兵器疑惑の国連動議が出されます。相手は日本国政府』

どうしてそんなことに？

『僕達、日本製品って話はしましたよね』

聞いてないと思う。

『ハッ…！ボツ原稿』
ドンマイ。

『どこで嗅ぎつけてきたのか、精霊機構が日本製だとリークして責任取れと。』

技術を弄び、世界に脅威をうんぬん』

どうかで盗聴していましたか。日本って脇が甘すぎますし。

『事実、僕等は大陸棚調査用のナノマシンが変異したものですし、証拠はすでに固められていて言い逃れの効かない状況でした。』

そんなわけで、湾岸戦争から何から莫大な戦費を請求されるハメになります』

怪獣災害は日本のせいじゃないでしょ？

『そんな正論、通るわけじゃないじゃないですか。』

んで、某国は日本の再占領というか差し押さえに乗り出します。

主に僕等を捕獲しようとするね、中央集積群の制圧を試みます』

中央集積群？

『ええ、当時は東京湾の海底一面にびっしりと』

そんなもの、どうやって制圧を？

『こつそりと自分らも作っていたナノマシン兵器を投入してきました。』

黄泉津醜女の劣化コピーでしたが』

ちゃっかりしていますね。というか、そんなもの作っていないから大量破壊兵器疑惑？

『正論なんて儚いものです。』

まあ、そんな劣化コピーなんて敵じゃないはずだったのですが』
不測の事態が？

『投入された劣化コピーが暴走して人間サイズの黄泉津醜女に変異しました。』

その数一万五千体。浸透攻撃で関東一面に多大な被害が発生しました。

在来武器では「ちよつと減る」だけですから止めようがありません。

頭を吹き飛ばそうが、胴体をぶち抜こうが
うわあ。

『対抗して急遽創られた戦闘体が今のワラシの原型です。
物量の差で、あつと言う間に逆制圧。』

でも、死者行方不明者十万を数える大惨事でした
それが東京封鎖事件ですか。

『この事件で我々は学びました』
何をでしょうか？

『言った者勝ちだと。』

そこで、即座に事件の推移を公表しました。

某国の兵器が黄泉津醜女に変異する様の記録映像を証拠として！
怪獣は某国の自作自演であり、我々は自衛権に基づいた正当防衛
を行つたと！』

やな教訓を学びましたね。

『しかし、某国はさすがですね。これは謀略であり、事実無根だと。
真つ向から証拠を無視する姿は感動を呼び起こしました。特に中
東各国あたりに。』

勉強になります』

やな勉強ですね…

『そして、引つ込みが付かなくなつた某国は暴挙に出ます』
やな予感しかしません…………

『翌93年9月、国際連合安全保障理事会の常任理事会で、多国籍
軍による東京核攻撃が緊急決議されることになります』

そんなこと通つたんですか！？

『通りました。ソ連・中国が賛成に回つたのが大きかったです。』

なお、名目は自律兵器暴走によって喪失した日本国の首都機能奪

還作戦です。

戦費は日本に請求することになっていましたし、敵性体の分散を防ぐために東京都民の避難期間は認められませんでした』

そんな虐殺が許されるなんて…

『我々には未来を守る聖なる義務と、耐え難い悲劇に耐える勇気がある。』

だそうで、その二時間後には作戦は開始されました。

ちなみに日本時間にして深夜二時半決議の四時半開始』

殺る気満々じゃないですか！

『かくして米中ソの核ミサイル63発、巡航ミサイル19発。弾頭数にして350超が早朝の日本に降り注ぎました。』

ただ、精霊と珠法士の本気を過小評価していたのが、某国の誤算です。

精霊の観測能力の支援のもと四名の珠法士により、あっけなく全ての弾頭は遙か宇宙に転送^{ポイ}されて果てました』

四名？意外と少ないですね珠法士。

『初期のメンバーですね。素性は本人たちの意志で匿名です。』

当時はテロリスト扱いでしたので二名ほどは国際指名手配されましたが』

駄目じゃないですか。

『まあ、ともかく。この事件で大きく流れが変わってきます』

事件扱いなんですね。下手しなくても大量虐殺じゃないですか。

『終わったことですし。遺恨はありません。しいて言えば、ある珠法士の発言ですが「一番すつとしたのは、ジジイ達が破産して果てたことかな」と』

ジジイ？

『作戦に合わせて、日本株・国債を大量に買い込んで、同時に別ルートでこれでもか！と空売りしまくってくださった大金持ちの方々

です。ちなみに買いまくったのはどこかのトンネル会社でした』
どこかで聞いたような。

『作戦は失敗し、スポンサーを失い、ヤブイリ大統領の支持率は墜落』

某国なんてどうでもいいんだけど、日本はその結果で満足するの？（疲れてきた）

『ここから本題。』

この件で日本は絶望しました。かつてないほど。

同盟国がよりによって事実上の首都に核攻撃を敢行するのはナイスですね、普通。

で、どうしたかといえば、国連脱退して僕等と講和しちゃたんですね、これが。

「もはや日本政府は連合と協力する努力の限界に達した」との表明付きで』

ん、どっかで聞いたような？んで世界征服に…

『なんてことはなく、さらに斜め上の選択をしました。』

東京で失敗したなら名古屋に住めばいいじゃない（一部、歌詞を変えています）

僕等に連れられて地球脱出。往くは遙か冥王星の更に果て。

ここヴァルナに移住を果たしたというわけなんですね。

日本国民一億三千万と特別移民一千万が』

そんな大人数、一体どうやって運んだんですか！

『15年かかって、コロニー引っ張って行きました』

ってか、太陽系外縁なんですか！キュビワノ族？冥王星違っし。

『詳しいですね…検索してませんでしたよね今…』

外縁です。だからコロニーは全て密封型なんですよ』

なんでそんなチェイスなの？

『実はここを探查した機体がマイクロブラックホール拾いまして』
拾えたんですか？

『いえ、持ち運べなかったので、ここに都市を』

…いやまあ、現状は分かったけど。（再びツツコミ疲れた）
しかし、全員して家出とは、逃げじゃない？

『いいえ、これは距離を置いてみただけなんです』

…絶 先生のアニメ上映会見てますね、作者。

しかし、喋る猫まで登場ですね。

『妖怪も出てきますので、安心してください』
何を？

#05 魔法使いの弟子

【ある根回し】

ある深夜。男が二人きり。模造の月明かりの元で対峙している。辺りには寝室にまでも堂々と立ち入ってくるワラシの姿もない。両者が精霊に絶大な影響力がある珠法士だからこそではある。

「だいたい、なんでお前らおもしろい夫婦が春告町に居るんだ？」

「それはこちらの話だよ。もしかして気づいてないのか？」

四季郡は例の第二鉾山の直衛だよ」

「え、なんだ。普段は御行儀良く閉じてるからな。気づいてなかった。

豊葦原の真ん中じゃ駄目だったのか？」

「第一とは違って嵩張るからなあ。

それに、周辺は気兼ねなく大砲を撃てるように原則として無人さ。しかし、さすがに発見されたんだろう。最近は定期便がウロチョロしてきている。

おかげで女房と交代で鉾山には詰めてるし、爺さんなんか住みついてる始末だ」

「あの爺さん、まだ生きてたのか！」

「死ぬどころか、そろそろ羽化昇天するんじゃないか？」

「地球人の三人目があの爺さんかよ」

「そんな場所で、精霊んトコが真珠規模の反応を観測したらしくてな」

「それも気づかなかったな、いつの話だ？」

「今月四日、日曜の午後三時頃だ。ほんの3マイクロ秒ほど。誤作動ログに紛れてたんだが」

「そんなもんだたのエラーに決まってるだろうがっ！
どうやったら、そんなに絞り込めるっていうんだ…」
と、ふと口ごもる。

「いやまで、日曜？…ナカヤハルミ幽霊事件」

「お前なあ…女房に聞かれてみる、また殴られるぞ」キョドる。

「妙なところで妙な名前を聞いたもんだから、出かけてみたんだよ。
誰かがまたぞろ妙なことしてるんじゃないかな」

「あの件は、終わったよ」

「そりや何より」

「それにしても、真珠…ねえ。眉唾にも程がある。

よりによって珠戦騎ときたもんだから、何かと思ったぞ。

珠法使いにやらせるしかないが、藪をつつくと大蛇が現れるかも、
か。

あんな取り回しの効かないものを引っ張り出すとは、相変わらず
過保護だな」

「珠法士は貴重さ」

「…そもそも、あれは真珠使いと関係はしていたが関係はなかった。
大げさすぎるんだよ」

「ワラシをスルーして、ナカヤハルミの名を出し、あげく真珠使い
の可能性」

冷静に指摘する。

「ふうん。」

別の根っ子なのか、見落とした先があったのか。

…面白いな」面白くなさそうに吐き出す。

…

「俺に任せときな。あんなモンいらねえ」

「有り難い、恩に着るよ」

「一日一本な」

「13号棒だろ。働けよ」

「そんなもん受け取ってねーよ。宮勤めは飽きたからな。依頼として受ける」

「了解した」

「ああそうだ、その晴海ちゃんだが！」

「うむつ、可愛いだろ」

「…意外に親馬鹿だな。まあ、当然だが母親に「よく」似てる。もつとも父親には全く似てないが」

「……で、だ。どうだ？何か変化はあったか？」

「相変わらず妙な繋がり方のまんまだ。

正直なところやはり、あんな繋がり方は他に視たことはない」

「そうか、繋がり直るかと期待してたんだが。

なあ、なんとかできないか？」

「修正するというレベルじゃない。

何より驚いたのは、あれはあれでかなり…強固に安定しているんだよ。

ヤバかったら、理由をつけて珠法行使は延期するさ。

しかし、つい試してみたくなつてなあ。思った通り、頑丈で歪みも無い。

むしろあれが不安定なら、並の珠法士なんて掘っ立て小屋だな。

珠法使いならば、そうだな今は清輪クラス程度」

相手の男が息を呑む。

「俺も女房も見鬼の才がなくてよく分らないが、そこまでか」

「…ただ理屈から言えば、彼女は珠法使いにはなれる「はずがない」

「理屈から言えば？煮え切らないな。

こと珠法に関してお前が口ごもるなんて珍しい」

「視たことがないと言つたろ。そして言つたさ。母親似つてな。

そんな事は、あり得ない。この俺、天翔の名にかけて断言しよう。

………と言いたいところだが。

春宮晴海は、ここに居る。俺の名も落ちたもんだ」

根回しに関して相談して、相手が帰った後も、男は思案を続けていた。

「さーて。アイツにや黙つといたが、とりあえず如月の嬢ちゃんの方が心配だな。

ありゃ、一体誰が勧請しやがったんだ？」

口ずさみし歌は、はるか過去となり。されど…

されど、誰ぞ繰り返すや歌の続きを。

#05 魔法使いの弟子

ふむ。では君は『魔法の国』から『女王』に遣わされた『精霊』だ。

「そう。驚くべきことは、その認識が何一つ間違っていないことです」

・・・

わんこちゃんに怪しい勧誘の魔の手が。

変身してアイドルか奇術師にでもなれというのだろうか？

ともかく！こんな怪しい話！速攻で！

「ロボット乗りたい！むぎゅっ」

うおい！

聡子嬢が後ろから羽交い締めして口を塞ぎます。ナイスフォロー！

「ロボット？ああ、乗ることになりますよ、多分」

なんですか！魔女っ子モノなのかロボット物なのかはっきりしてください。

：そういえばロボットに乗って闘った魔女っ子もいましたね。
いや、思考が逸れてる逸れてる。

なんでスカウトなんですか？普通は血統でしょ？

「まあスカウトと言いましたが、ええと、言いたくないんですが」
なんか苦悩しています。

「ええと・・・実のところ予言が」

ははは。ふふふ。はははははははははは！

胡乱さが倍プッシュです。大笑いしてやりました。

当猫は頭を抱えて転がっています。

「次の女王が現れる。と。カシオミニを賭けてもいいそうです」

どこの漆原教授だ、あんたの女王様！

今にも血涙を流しそうな苦悩が見て取れます。

どこまでその女王さまに無茶振りされてるのでしょうか？

「カシオミニ？」

可愛らしく小首を傾げた聡子嬢。

：わんこちゃん感染拡大しつつあるんじゃない？

「さて、怪しい私は暫く退散するとしましょうか」

まで、引っ掻き回してトンスラしようってか。首根っこを捕まえて締め上げます。

自分のどこにそんな力があつたのでしょうか、バカ重い身体が吊り上げます。

「私は裏方ですので。」

そうそう、一つだけ。その石。宝珠と言つものですが。あまり人には言い触らさないように願いますね。要らぬ争いが降りかかりますよ。

消して回る私の手間を考えてください。では」

あ、きゃっ！

ふいつ、と一瞬で手のなかから掻き消えました。走り去つたのもなく。

それにしても消す？何をでしょう！宝「珠」？珠法？ははは。聞きたくなかつた…

精霊、怪獣、珠法士。胡散臭い事が、今世には多すぎます。私は平穩に、只々つつが無く暮らして行きたいのです。

ので、努力することにしましょう。

とりあえず二人には、家族にも内緒だと言ひ含めてあります。

とはいえ・・・どうすれば良いだろう。

真っ先に思い至つたのは両親に相談する事です。しかし、

通報してみました。が公務だそうです

うちの両親は珠法士組合の人間です。

そして珠法士組合は既に誰かの意図の元で行動している訳で…結論、両親に相談するということは、その誰かの意図に否応無く

乗せられてしまう可能性が高いということになります。

ゼンマイ、何か案はないかな？

『相談ですか？でも、ハルハルは私達のことも疑っていますよね』

そう、最も困っているのは、精霊が味方でない可能性ですね。

しかし、精霊が敵だとしたら、そもそも完全に詰んでいます。

自分らが勝利することを前提とするには、精霊は少なくとも全面的な敵ではないと、根拠はなくとも信じるしか道はありません。

が、それなりに根拠は無くもないのですが。

あの幽霊などがワラシの探知を意図的に避けていることです。

これは、彼らに対して精霊を中立として挟んだ別の勢力が存在していることを示していると考えます。

『では一つ。残る既知の珠法士は天城様と例の珠法精霊機に乗っている人ですが、後者は連絡の取りようがありませんし、間違いなく珠法士組合の関係者です。』

ということで消去法で天城様はどうですか？』

それも無理じゃないのだろうか？

味方として引き込むには当然に対価を支払う必要がありますよね。しかし手持ちのカードは惨憺たる有様です。幼稚園児だから仕方ないでしょう。

身体を売る？前世では生き延びるために身体を売ったものです。

いや色気のある話ではなく実験的治療、要するに人体実験に参加しただけです。家族も財産も高度な保険もない自分が治療を受けるためには、それしかありませんでした。

身体というより、病気を売りものとしたわけですね。

というように、目的のためになれば、持てる全てを投げ打つ覚悟はすでに有ります。

しかし、投げ打とうにも弾丸が無ければ…

ああ、ヤラしい意味で身体を売るのも却下です。

春宮家はどうか大身に数えられる家柄のようですが、その市場

価値は不明です。

ですから、それは本当の最終手段です。

『最終手段に数えるんですね…ソレ』

何か弱みでも無いでしょうか？この際、多少の倫理的問題は問わないのですが。

『聡子嬢は味方と考えてもいいんじゃないでしょうか？』

なんで？ああ、繋ぎから考えなきゃ駄目ですね。

弘毅君に対する説得で、繋ぎは取れそうです。

でも、こんな危ない訳の分からない話、聞いてくれるのかな？

『新任侠組織ですから』

ん？新任侠？暴力団とは何か違うの？

『新任侠は、いわゆるヤクザ映画に観られる任侠道に感化された自治組織です』

なんなのソレ？

『男を磨こうという運動です。』

犯罪組織化した暴力団に対し、古来の任侠道を復古させようという。

ぶっちゃけて言うならば、カッコいい男を目指して女性にアピール

『ゴンっ！思わずテーブルに突っ伏します。』

ええと、アリですかそんなの。

なんか、南国の鳥が雌の前で踊り狂う様が頭を過ぎりました。

『暮らしていく上でのベーシックインカムを提供されているこの国で、非常に重要視されている人生の目的は、子孫繁栄ですからね。』

話さえできれば、手を引くことはあっても裏切る可能性は低いでしょう。

信用第一という点では、精霊と同じです』

話を聞いてくれるのか、という問題は解決していませんね。

とりあえず、明日にでも聡子嬢たちに相談しましょうか。

翌日、早速に聡子嬢に相談：するつもりでしたが。

『手間が省けて良かったのではないですか？』

我々三名の前には、天城さん。

幼稚園の応接室とは、幼児と部外者が面会する場ではないと思うのですが。

後ろにはスーツ姿の女性を連れています。

誰でしょうか、ワラシに混じって堂々と天城さんの後ろに立っています。

「いや、済まないな。忙しいところを」

いえ、幼稚園児ですし。

「何か私達に御用なのでしょうか？それと、そちらの方はどちら様でしょうか？」

聡子嬢の疑問はもっともだ。幼稚園児に面会の要請なんてなあ。

「こいつは、例の「ロボット」に乗っていた奴さ。

任務を俺が引き継ぐついでに、ちよつと借りてきた」

「夏目久子と申します」

「御用があるのは、むしろそちら側かと思って手間を省いたんだけどな。」

特に、如月杏子ちゃん。面白いものを持っているね」

なんか既にバレバレです。

何の話でしょうか？とぼけてみよう

「これ？」

おうい！

いや、もう、想定しておくべきでした。

「そう、それは如意宝珠という。珠法士自身と言える道具だ」と、どこからともなく取り出してみせる一つの石。

「全ての珠法士はコレを持っている」

ビー玉のように丸い。紅い石です。

「綺麗…」

天城さんのソレは、燃えるような紅。

後ろの女性が驚きに息を吞んでいます。

しかし、やはり珠法関連でしたか。

「拾ったの…返さなきゃ駄目？」

わんこちゃんがベソをかきはじめています。お気に入りの石ですから。

「ああ、心配しなくていいさ。

こいつは、捨てたり失くしたり取られたりすることは無いからな。もちろん、拾うことも。

つまり、これを持っている嬢ちゃんは珠法士の卵なんだよ」

わんこちゃんと聡子嬢は、きょんととして瓶詰め宝珠を見つめます。

あたしはといえば、やはり厄介な事になったと頭を抱えます。

「夏目。ジジイ共に伝えるか？」

猫の件まで、きつちりゲロさせられています。

「え、あ。任務ですから…何か？」

不意に声をかけられた夏目さんは、虚を突かれて口ごもります。

いくらなんでも与太が過ぎていて、報告とか困るでしょうね。

しかし、前置きとか無いですね、天城さん。

ちよつと考えこんで、

「やめとけ。あいつらがすつきり掃除されても俺は別に困らねえが、寝覚めが悪い」

「まさか。双音とかの方も居らっしゃいますから。核爆弾とかでも

無理ですよ」

鼻で笑い飛ばそうとした夏目さんですが、天城さんの目は笑っていません。

「まさか」

「さて、本題だ。そいつを何とかして欲しい。そう考えてないか？
はい、その通りです。

でも、交渉するにも、その代償を払う当てがありません。

「代償か？」

代償のない契約はナンセンスだと思います。

「ほんとに幼稚園児か？」

母親似だと言われるだろ」

母とお知り合いですか？

「昔馴染だよ。で、まあ、幽霊調査の依頼を引き受けた」

…組合としてですか？

「敏いな。心配するな。幽霊調査限定で日雇いアルバイトさ」
いえ、何を心配すると？

「石の件が大袈裟になると、如月の嬢ちゃんに都合が悪い。
そりゃそうだ。出所も知らない宝珠を子供が手に入れたんだから
な。

欲しがる奴はそりゃ多かるう。どんな手を使っても。

それが分かっていたから、親御さんにも相談しなかった。

助けを求めている相手が分からないからだ」

「そうだったの？あたし、お母さんに話しちゃった…」

「大丈夫ですよ、幼稚園児の言うことをマトモに取り合う大人なんて、
」

「ナカヤハルミ」

！

「これは不味かったな。組合の一部に流れちゃったよ」
なんでそれがマズいのですか？

動揺を隠して質問します。

「ああ、精霊戦争の匿名希望の珠法士の名前なんだよ、それは」
え？

「中矢晴美。春宮和臣。天翔。カント。

それがこの世界で伝説となった最初の珠法士だ。

他言無用だからな。本人らは一応は名前を隠している。

まあ、春宮の家は知られ過ぎてるんだが」

「テレビでも出てきて無いトップシークレット！すごい」

緊張感ありませんね。無敵ですわんこちゃん。

それと和臣って、お父ちゃんの名前です。

もしかして三代目春宮和臣とかなんでしょうか？

「そんなこんなで、その名前を使って詐欺やら悪戯やらが絶えなくてな。

春宮はそういうのに過敏で、逆にそういう噂があると暴走するんじゃないかと、そう世間には見られている。

だから、わざわざ珠法士なんか調査に引っ張り出しやがった、という顛末だ」

では、あのロボット…わんこちゃん感染した…珠法精霊機は、ウチのせい？

こくこく。

あちゃーっ。

「しかしだ、その宝珠の件は別だ。ちょっと話題性がありすぎる。珠法士候補生でもない子供が宝珠持ちとは」

「でも、確か珠法士候補生って500人に一人はなれますよね。そこまで問題化するのですか？」

「珠法に対する通過儀礼。珠法接続っーんだが、こいつが組合の最高機密技術でな。

これが漏れているってことになる」

「？」

ああ、未登録の珠法士やら候補生が溢れかえる事態に！

「その通り」

「大事件じゃないですか！」

夏目さんが血相を変えて天城さんに食いかかります。

「まてまて、そうは言っても、技術はあってもホイホイ再現できないから安心しろ。」

研修で聞いたよな。汎世界で出自不明な珠法士なんざ二人きりだ「汎世界？」

「そもそもだ。そんなことするなら、珠法研修受けて珠法士になつてからトンスラすればいいんだ。それなら無料どころか精霊が研修生手当まで出してくれるだろ。」

メリットがないんだ、メリットが」

「研修受けたら身元が判るじゃないですか」

「戸籍なんてコレ次第でどうにでもなるさ」¥

身も蓋もありませんが、反論できなさそうです。

ん？でも、それは謎は解決していませんね。

「ちっ、やりにくいな。お前、母親に似すぎだよ」

幼稚園児に舌打ちしないでください。

「ともかく、そんな技術は流出したとしても悪用のしようがないわけだから慌てても意味が無い。」

頻発するようなら改めて捜査もできるが、この件だけじゃ手のうちようが無いだろ。

その猫が現れるようなら、俺が相手してやるよ」

ですから、代償が…

「自慢だが、俺は顔が広い」

自慢ですか？脈絡がありません。

「嬢ちゃんの母ちゃん達とも昔からの知人なわけだ。心配なら確認しとけ」

ん？

「ただし、俺は組合からは距離を置いている。

これは坊ちゃんにでも聞けば判るだろう。」

坊ちゃんの生まれた以前から上総には厄介になっているからな。
とはいえ、まだまだ色々と無理を言えるくらいには組合にも顔が
利く」

言いたいことが見えてきました。

身元が確かで、事情通、パワーゲームには参加していない。

「三人まとめて俺の弟子になって、仕事を手伝え。

法定年齢になって珠法行使資格を取得したら、如月の嬢ちゃんは
ウチで最低5年間勤務すること。

当面の厄介ごとは引き受けてやろう。

これでどうだ？悪く無い話だと思うが」

…弟子？

ぼそぼそ。

悪くないと思う。いざとなったらウチの親にチクルし

珠法士の方のお手伝いって、とても興味あります

ロボット、乗りたい

よろしく願います。

………わんこちゃんの野望が、なんかアグレッシヴで心配ですが。

えーと、天城さん。

「師匠と呼べ」

はい、師匠。

「何故、そんなに親切にしていただけなのでしょう？」

「強引に弟子にさせられて親切？」

まあ、楽観的に見て、古い知り合いが悪趣味を仕掛けているから
だ。その本意は知っておきたい」

「心当たりあるんですか！」

夏目嬢。腹芸とかできませんか？

悲観的には？

「見ず知らずの奴が悪趣味を仕掛けているなんて考えたくないな。

そいつの確認も兼ねて、お前らを目の届くところに置いておきたいんだ」

「でも…」

夏目嬢…涙目です。

「お前んトコのジジイらには、手出し無用とだけ言っといてくれ。くれぐれも変な真似するなよ。」

まあ、無理にでも聞き出そうとしてきたら報告してもいい」

後日、血相の変わった夏目嬢をなだめている師匠の姿が…マジだったんですか、たーちゃん。

しかし、始まりの珠法士が同姓同名だったとは驚きました。でも…人違いじゃないですか、あたし！！！！

#05 魔法使いの弟子（後書き）

【本編よりも長くなることもあるかもしれない後書き】

魔法少女マジカルわんこちゃん（仮）

幼稚園児に迫る残念な中年

りばいばる2

『今回のサブタイトルの候補ですね』

魔法少女マジカルわんこちゃん（仮）は、話がそこまでたどり着かなかったので次回以降みたいです。

『2つ目：お脳の具合は大丈夫でしょうか』

援助交際。とかいうタイトルも実は出ていました。

『3つ目は、冒頭の気分出してるモノローグと、ナカヤハルミの謎（笑）に焦点をかけていますね』

残念なのか、ホツとしているのか、複雑な気持ちだわ。

『ハルハルの転生にかけて「りばいばる」なのかと思ってたんですが、それだけじゃ無さそうですね』

実は伏線なんだ！と作者は言っていますね。

『やりすぎて、ネタバレしてorzとならなければいいんですが』
むしろ、バレてしまえ。

『でも、準備しているネタより面白ければパクる気かもしれませんよ作者』

そんなまさか。

『さて落穂ひろいの時間です』

四季郡？

『春告町は秋楽町という町とセットで一個のコロニーです。そして周辺のコロニーと併せて、秋田県にかほ市四季郡という行政区分になります』

秋田県だったんですか。

『続く豊葦原というのは、日本国宇宙都市群の総称です。地球の本土は現在も精霊機構が管理運営していますが、行政区分を転用したため、本土と紛らわしいためコロニーを豊葦原と呼んで区別しています』

第一第二鉦山？

『これは秘密なので詳細は内緒です』

サードインパクトでも起きるのかしらね？

『そういうものとは違います。ぶっちゃけ発電所ですから』

ああ、前回の後書きで言っていましたね。マイクロブラックホール。ちなみに作者も、書いたことを忘れていたそうです。

『あれ、これ書かなかったっけ？と』

設定管理がかなりいい加減ですね。

13号棒？一本って？

『珠法士組合の基本棒給ランクですね。

精霊機構からの肝いりで運営されている珠法士組合は、珠法士の繋ぎ留めのためにN号報酬と呼ばれる月給が出ます。

精霊によるなりふり構わない待遇なので、半端ではありません。13号棒は最大のランキングで、年収に換算すると50億ほどになります』

ぶっ！師匠って高給取りなんですねえ。

『一本は会話の流れからして百万か一千万？

13号棒なら働けと言われ、縁は切っていると返していると思われず。

実務においては手当その他の追加報酬でその何倍もの収入が発生しますので、あくまで最低保証です。棒給は年金ですね。

高ランクの珠法士の場合ですが、個人でコロニーの数基すら保有できます」

でもTVドラマでは冷凍食品とか店屋物食べてましたが、耕作さん。

「そこまで行かない中堅の珠法士でも、普通に優に10桁の年収はあるはりますが、まあ人それぞれですから。ハルハルのご両親とかだって質素ですし」

変な経済観念付くと困るので助かつちゃう。

次は珠法精霊機ですが、取り回しの効かないとかとことん評価が低いよね。

「第4話でも言われていましたが、あれは超高性能な防弾チョッキです。

デカすぎて屋内戦闘とかできません」

でも、強そうですね。

「戦闘力で言ったら、標準的な珠都レベルの珠法士ですら、単独でコロニーなんか吹き飛ばせますから意味が無いです。

あれは単に珠法士の手を煩わせずに防御・移動をこなすためだけにあります。

自前でやれる実力があるなら、コロニー内じゃ邪魔にしかありません。

ただ機密であるヒッグスアイソレータと転換推進によるエジェクタ機構、いわゆる光速ドライブ機構すらも一部の超高位珠法士には無用です」

さらりと秘密兵器っぽいネタのバレを…本編じゃ出てこないのかな？

「珠法士にとっては装備の話ですし」

珠法士といえば、珠都？双音に清輪？羽化昇天？地球人の三人目？
真珠って金銀パール？

『珠法士のグレードですね。珠法結合深度とも言われます。
支根、自居、珠都、双音、清輪、授意。が知られています。
珠法士と認められるのは珠都以上で、大概はそのまま退役します。
双音は真正に超人です。珠法精霊機なんて足枷にしかありません。
話からして天城氏はこれ以上の実力者なのかも知れませんね。
清輪は珠法士組合の幹部級。授意に至っては、伝説級と噂されま
す。』

真珠とか羽化昇天などは話の進行上、内緒だそうです。
金銀パールなんてものじゃありません』
グレードって棒給ランクとは違うの？

『棒給は待遇ですが、グレードは能力を表しますから。
色々と貢献した13号棒の珠都も居れば、若手で7号棒の双音も
居るでしょう。』

大体、35年も貢献すれば13号棒には達します』
あたし、珠法士にはなれないとかの見立てだけど、それなのに清
輪並みとか持ち上げられていたね？

『見鬼と言われていましたし、単純な話ではなさそうですね。
今回の天城氏の講義に關係するのかも』
講義は次回だってさ。

珠法の理屈の辻褄合わせを苦労して書いたけど、伏線を書き忘れ
たのかなんとか。

『珠法の理屈？そんな情報に伏線って入るんですか？』

しかし、今回の冒頭は聞いてないシーンなのに解説…
いい加減にしてください作者。

『三人称にすればいいのに、意固地になってませんか作者』

一人称が人気と聞いて、やってみたのはいいけど…とか言われても困るよね。

#05・5 よくわからない珠法教室

ある師弟の会話。あるいは脱線。

「実のところ珠法は、すでにこの世界で発見されている概念だけで説明が可能だ」

そうなんですか？

「珠法研修で学ぶ珠法概論は仏教と物理学での概念で書かれているぞ」

仏様のご威光で物理に影響するとか？

「茶化すな。宗教も馬鹿にはできないぞ。特に元々の仏教は技術体系の集まりだ。

例えば智慧という仏教用語は知っているか」

知恵の原義ですね。

「智と慧は元々は異なる概念で出来ている。

まず智は真理を知ること。つまり雑多な事例から法則を抽出する行いを言う。

そして慧とは、逆に法則を元に事例を予想する行いを言う。

これを西洋哲学的な言い方では、それぞれ帰納と演繹のことだな」
科学の基本ですね。

「また、修行方法として四聖諦を説いているが、これは全くそのままPDCAサイクルを意味している。苦、つまりは問題に対して計画・実行・評価・改善を繰り返して解決していくことが悟りに至るとしているわけだ」

修行って、精神統一とかするのかと思っていました。

「修行とは百日断食をするとか読経を行うとか具体的な何かじゃない。いくら苦行を積もうとも、目的を見失っている修行は時間の無駄だ。

そもそも四聖諦の考え方に拠るならば、苦行なんてものは自分一人の問題であり、つまりは苦行したいという煩惱に過ぎない。

目的を達成するためにどう行動すれば良いのか、という一方法論を習得（、、、、）することこそが仏教本来の修行のはずだ。

さて、ここで出てきた目的だが、

仏教の話ばかりですが、基督教とかじゃ駄目なんですか？

「あれはただの土着の道徳規範であって、技術ではないからな」
振っておいて何ですが、バツサリ行きましたね。

「時に仏教にも基督教と同様に宗教改革が起こったことがある」

聞いたことがあります。大乘仏教ですね？

「この時に重要な概念が完成されている。それは空くうという概念だ。

「色不異空、空不異色、色即是空、空即是色」は聞いたことがあるだろう。

空は実態のないものを意味するが、この世の森羅万象とは、因と果ではなくその間にある空において生じている、関連性である。という考え方だ」

仏教って、宗教と言うより哲学臭いですね。

「珠法における世界観つまり解釈は、これに似ているが実は逆方向のアプローチから生まれている。

仏教においての因と果はあくまで健全な常識の範囲内で演繹的な問題として捉えられ、空もまたその克服を模索するための方便だが、珠法においてはその原理を理解するために帰納的に発生した解釈、という違いだ」

帰納的というと確か：珠法は経験則だということですか？

「その通りだ。まず現象があり、それが解釈されたのが珠法なんだ。順を追って説明しよう。

この世界でも因果とは絶対的ではなく、因はあっても果は不確定という現象があることが知られているだろう」

ハイゼンベルクの不確定性原理ですね。

「そうだ。色々な世界で物理学はそれぞれ研究されている。

当然に、不確定性原理も当然にそれぞれで発見されていた」

色々な世界？

「エヴェレット解釈における可能性世界全体。つまり異世界だよ。

大陸の海岸線地形や恒星の二個三個程度は違っている、異世界の太陽系でだ」

そんな別の世界の情報を、なぜ知り得たんでしょう？

「そう聞いたからさ」

ジト…

「ふざけているわけじゃないぞ。

この世界の科学理論体系の中で、珠法が完成されたと思うか？」
理論の系統もなく突然に珠法士が出現したことでしょうか。降って湧いたように。

「その認識で正しい。それを伝えた者がいるということだ。

文字通り降って湧いたんだよ。

そいつの説明は、測定可能なほど具体的で、再現性があり、説明は整合していた。

珠法の成り立ちとして他に説明できる解釈がない以上、とりあえず疑う根拠も無い。

というわけで認めるしかなかった」

この間、汎世界とか言っていたのはそれですか。

「そうだ。珠法を使う既知の世界を汎世界と呼んでいる。そういう意味では、ここも今では汎世界の一つだな。

これは「汎」などと呼んでいるが、実際は世界の一部に過ぎない。

多世界解釈世界、確率世界、可能性世界と呼ばれているものの、極々一部に過ぎないことは明白だ。

何しろ、月が存在しない程度の「近くの世界」すら、汎世界には存在していない。

理論的には、別のビッグバンから発生した異世界も存在しているはずだからな」

本当の異世界もあるという話ですか。

「汎世界を含んだ重ね合わせで存在している宇宙群全体としては、未だビッグバンが発生していない時間線も、既に熱的死に至った時間線もあると予想されている。」

これはある意味で恒常宇宙論と言えることから、常世の国と呼ばれている」

常世の国って古事記にありますよね。なんででしょう、珠法関係には古事記の用語が散見されます。黄泉津醜女。ん？このコロニーも。

「日本国宇宙都市群を「豊葦原」と呼ぶことがあるが、これも古事記から取られている名称だ。黄泉津醜女の方は、何故この世界の符号で名乗ったのかは解釈に苦しむんだが、古事記の内容はかなり汎世界的な神話だよ」

順当に考えると、汎世界から誰かにより伝えられた伝承が古事記として編纂されたのでしょうか？

「そうだろうな。珠法までは伝わらなかったんだろう。」

雑学だが汎世界では珠法を行使することをカムイと言っそうだ。

日本語やアイヌ語での「神」の語源かもしれないんだが…誰もカムイって言わないんだよな」

なんとなくセンスが厨二臭いからでしょうか？

#05・5 よくわからない珠法教室

ところで師匠、二名撃墜されている模様です。

さすがに幼稚園児に仏教や科学を語るのはどうかと思います。

「理屈はお前の専売だから、まあ構わないだろう。それよりも、お前さんが着いて来ていることのほうが驚きだよ」

まあ、自分は理系気味ですから面白いです。なかなか聞けない話ですし。

でも、わんちゃんも舟を漕いでいますが構わないんですか？

「理屈なんて、必要になってからでいい。まずは身体で覚えるものだからな」

あたしが聞いていても、珠法使えないので持ち腐れるかもしれま
せんよ。

「そのところは大丈夫だ。珠法が「使え」なくても、珠法は「扱
え」る」

そうなんですか？

「別のニュアンスで言うなら、作曲と演奏みたいなものかな。

珠法は術式の形で使うことが多いが、これはアドリブ抜きで楽譜
をそのまま演奏するようなものだ。やみくもにピアノを叩いても曲
にならないように、術式としても感覚的に発動するのと理論的に発
動するのは効率が違いすぎる。

そしてこの術式だが、これはプログラミングと考えてほぼ間違
いない」

プログラミングですか？

「組み立てた術式の台本を実行するための術式つてもものがあるんだ。
こないだの俺の仕事は見ただろ。あれも術式の台本、プログラミ
ングに倣ってスク립トと呼ばれているものを実行していたんだ。
口に出していたのは術式じゃなく、全て他の人間に状況を伝えるた
めのものだ。実行中の術式に仕込んだトレースログを読み上げてい
ただけさ。意思決定する構成要素もあり、スイッチとかプロンプト
と呼ばれている。

問題の因果操作そのものはブラックボックスと捉えているため、
通常は隠蔽されていてスク립トには現れては来ない。呼び出し規

則があるだけだ。

だから、記号的に術式を研究することも可能になる。
むしろスク립ト内容の大半は安全機構やデータ処理であることから、術式設計はプログラミングと考えるべきだ。

お前さんはそういうのが得意そうに見えるが？」

プログラミングなんてやったこと無いですよ？作曲も。

「ゼンマイの最適化具合をみれば適性も判るさ。聞いたぞ入園式の立ち回り」

何か変なことしましたか？

師匠は虚を突かれたような感じで絶句しています。

「お前さんが思う以上に、変なんだよ。」

監視カメラ動画を見たが、野村の嬢ちゃんがコケる以前に動き始めていたな」

なんとなく、転びそうな感じがしましたので。

「実はお前さんよりも早く動いていたのが、ゼンマイだ。バッグを開いて、救急箱を引っ張り出していたのが写ってたよ。

異常に気づいて、お前さんの次の行動を読んでいただろ」

「ええ。多分、手助けに出るだろうと。」

そのため必要になりそうなファーストエイド装備を準備していました」

そうだったの？

「よくもまあ三四年でここまでカスタマイズしたもんだと呆れたよ」

「ハルハルは徹底してますから、大抵の突発事態なら行動基準は明確化されてます」

「なるほど。例えば今ここで火事になったら？」

「通報と同時に私が先導して敷地外の公道に避難します。そこで安全を確保した後、私が戻って状況を確認します」

「そこが幼稚園だった場合は？」

「ひとまずその場を動かずに待機して指示を求めます。指示が無ければ、最寄りのシェルターに移動します」

「建物に入った時のゼンマイの確認事項は」

『緊急時の避難経路の検討と防災設備や通信状況の確認、動線のシミュレーション、設備のリスク評価です。これらは3次元モデル化して管理し、二次元の簡易データはハルハルに提示します』

「ちよつと病的だな。自分でも確認してんだろ？していない訳が無いな。」

ワラシの役割は主人の行動のサポート。お前さんが確認と分析を徹底しているからこそワラシは鍛えられるんだ。プログラマーの三大美德つてのは無精・短気・傲慢というが、そこまでいけば傲慢は充分だろうさ」

放つといってください。

「話を戻すと、その研究の過程として数々の観測が繰り返された結果、この「不確定」には、どうも微小だが有意な偏りがあるのではないか？という仮説が生じてきた。

それどころか、結果ではなく原因にも有意な偏りを主張する者もいた」

仮説？統計上の検証ではなく？

原因にもというのがよく分かりませんが。

「観測機器の較正が狂っていたことが分かったりな」

なんか言い訳というか負け惜しみ臭い気がします。

「大体がプランクレベルでの観測結果じゃ観測の物理限界に近いから、誤差なのか現象なのか判断しかねていたのも確かではある。

そうこうしているうち、この世界で言われているのと同じ人間原理の延長として、恣意的観測理論という仮説が提唱された。つまり生命が都合よく観測したからこそ、世界はこうデザインされているのだという理屈だ」

悪い意味で宗教臭いですね。

「これを言い換えるなら、因果律はその過程の都合で原因と結果が

決定される。

まさに是諸法空相なのさ。仏教僧はそんなこと思いもよらなかっただろうけどな」

：偶然に、ここがそういう収束を行なっている世界なんじゃないでしょうか？

あらゆる可能性が有りうるんですよね？

「本気でプログラマーか科学者向きだよ、お前さん」

「以上のような経緯で、汎世界では珠法の基礎理論というより基礎空論が推測されていたわけだが。いかんせん原理は考案できても、それを活用する存在が現れるとは思われていなかったのが実際だ。今となってははるか昔、イシャナと大君が彼らの前に登場するまでは」

イシャナ？

「イシャナ達は史上最古の珠法士だ。

世界間を渡るほどの珠法を行使し、珠法の基礎技術「如意宝珠」をもたらし、それにより珠法士という勢力を汎世界に創り上げていった。大君の根堅州民に対抗して」

世界間を渡る？

「自分自身を再構成して移動するんだよ。

アウトサイドステップって言う珠法でな、目標地点での存在の確率を操作すれば、どこにでも。常世の国に存在している別の宇宙にだって行けるはずだ」

師匠は使えるんですか？

「使えるように見えるか？」

：

「そのイシャナだが、イシャナとはつまり伊邪那岐命。道敷大神、黄泉津大君たる伊邪那美命と国産みを成し、そして袂を分かつこと

となつた神の一柱に相当する」

大君の根堅州民…黄泉の住人。怪獣の出所つて本気で黄泉の国つてことですか？

「その通り。伊邪那美命がなゼイシヤナと対立する事になつたのかは不明だが、あれは黄泉津大君の手のものだ。」

一日絞殺千頭。一日立千五百産屋。

古事記にそう記されているように、伊邪那岐命と伊邪那美命は、今もなお争い続けている」

延々と殺戮して回っているのですか…迷惑ですね。って、昔の話ですよ？

「いや、延々と生きてるらしいんだよ、イシヤナも大君も。これがまた」

「話を戻そう。この常世の国を介して特定の状況に収縮させることが因果を操作することだが、本来それは観測困難な程度の微小な操作しか成し得ない。」

しかし、生命は確率世界に遍く存在している。これらが連携し自己組織化することで、より恣意的かつ大規模に因果を選択することが可能となる。

この行為を珠法、これを行う生命群を珠法使いと呼ぶ。

まあ、珠法使いでは物理法則を恒常的に操作するほどの力を持つ者は聞いたことがないし、質より量がという側面もあるがな」

都合に合わせて状況を操作するって、御都合主義を現実化するよなものですか。

「そう言うな。元々の人間原理自体がものごつつい御都合主義だしな。」

この連携を中継するある種の通信デバイスが如意宝珠と呼ばれるもので、具体的に言うならば近傍の世界間を横断して存在している特異点だと思われる。

特異点自身は物理法則つまりは因果の範疇にないため、少なくとも近傍世界間では決定論的存在と見なせるわけだ」

そんなもの安定するとは思えないんですが。

「持ち主が自発的に安定させているんだよ。」

だから「こいつは、捨てたり失くしたり取られたりすることは無い」わけだ。

そして、これを安定化できるということは、即ち珠法士ということになる」

「更には、この理屈によって生命の定義も明確化されることとなる。生命とは、因と果の間の空が因と果に影響を与える現象と定義されたんだ。」

人間原理を拡張した生命原理。それは宇宙の法則を、かくあれ、と規定する力だ。

これにより、例えば量子デバイスを持っている故に、精霊のような機械も生命の一つとして数えられている」

ゼンマイ、あんた生き物なんだね。」

『とりたてて主張しても意味がありません』

「まあ、これは危険思想に繋がりがやすいんで、あくまで学問的定義なんだが」

危険思想？

「強く因果に影響する者が優れた生命であるという思想だ。」

珠法使いよりもむしろ一般人に根強く流布しやすいのが厄介なところだ。

この世界で言うなら、仏陀やキリストなどの英雄崇拜がそれに当たる」

宗教は危険思想ですか。偶像崇拜はどんな宗教でもお題目として禁止していますが。

「口実として最適だからだ。医薬品と同じで危険物と考えたほうが

いい。

しかし宗教業者が偶像崇拜を禁じるのは、危険だと思っているわけじゃない。顧客が業者を必要としなくなると困るからだよ。

勝手に二次創作されてそっちがウケちゃ、そりゃ商売あがったりだからな」

何か宗教に怨みでも？

「本気で偶像崇拜を禁じているなら、本拠地に宗教絵画なんて飾るもんか」

「次に、この生命の定義から導かれるのが、魂魄という概念だ。

この世界での魂魄とだいたい同じ使われ方をする言葉だな。

珠法では、個々の生命端末を魄、生命群のネットワークを魂と定義している。

生命と魂魄。これは珠法使いとかを理解するために重要になる。見た目の個体だけでは定義できないから、必要に迫られて創られたわけさ。

観念ではなく働きとして説明するならば、精霊なんかは最適だろう。

ワラシは単体として存在しているが、その実、精霊機構という総体が本体だからだ。

この場合、ワラシが魄で機構が魂と見立てると分かりやすい」

魂魄ですか、幽霊とかは？

「ああ、そういえば幽霊事件が切っ掛けだったか。

幽霊も現象としては無いわけじゃないな。

生命端末が死亡しても、生命群自体はまだ存在している。

だが、この世界で死亡したということは近くの世界でもほぼ確実に死亡しているから、普通はそんなに大した影響力は持てるはずがない。それほどの影響力を持つほど強力な珠法使いなら、因果を操作して自力で復活するわけだしな。

「そうだ、生命群の具体的な説明をしていなかったな」

異世界の自分かと思っていたのですが、違いますか？

「それもあるが、そもそも個人とは何だろうか？」

特に考えたこともありませんでした。

「例えば、お前さんがこの場から消え去ったとしよう。

しかし俺の中には残っている。両親や如月に野村、それぞれの中にもだ。

つまり、こうした環境もまた春宮晴海という生命群の一部として数えられる。

それどころか他の要因も加味されて、例え星ごと吹き飛んだとしても生命群が残っていることがあるくらいだ。

そもそも、生命原理から見るなら、個々の世界よりも早く生命が存在しなければおかしいことになる。

宇宙が魂を造り、魂が魄を造り出すために宇宙を改変したはずなんだからな」

宇宙が先か、魂が先か、ですか。理論が正しいなら、そういう理屈になりますね。

「俺たちは世界自身に記憶され続けていると言ってもいい。

この記憶が生命群と呼ばれているものだ。

だから、何かの拍子で世界が誰かを思い出すことも無いわけじゃないのさ。

幽霊とはそんな現象の総称だ」

それが、誰かに取り憑いたりとか？

触れたくない話題だが、これを聞かないわけにはいかない。

あたしは緊張を隠しながら、尋ねた。

「その記憶を自分の体験だと思うほどのオツチヨコチヨイがいたら見てみたいかもな。

そういった現象は世界に閉じて起こるから、生命群に干渉するほどの影響は起こらないものだと考えられている。もしも汎世界的に

発生するならば、それは生命群と呼べるほどの存在となってしまうから、という希望的観測なんだが。

まあ、そうそう自我っていうものは揺らいだりはしないもんだ」

あっけなく否定され安堵するが、あたしは更に想像してしまった。

それが、生まれたての赤ん坊とかだったら…

自分はその生命を掠めとってしまったのかもしれない

今はまだ考えないでここう。

世界と魂の順序が分からないなら、世界と魂は同じものかもしれないですね。

「…驚いたな。そういう考えはすでに有るんだが、自分で思いついたのか？」

昔、ある人がそれをこう呼んでいた。

常世の国の過去と未来、その全てを含んだ究極の果」

「非時香果と」

#05・5 よくわからない珠法教室（後書き）

【本編よりも長くなることもあるかもしれない後書き】

『解説話なので、後書き要りませんね。楽チン』

無理矢理感が高すぎますってば。

『ただですら読者数少ないのに、ハードルを更に上げる暴挙』

なので、逆にかいつまんだ説明を載せましょう。

常世の国

エヴェレット解釈における可能性世界全体です。

非時香果と呼ぶ人もいるそうです。

特に目新しい設定ではありませんね。

ビッグバン宇宙論と恒常宇宙論の共存は…珍しい？

汎世界

珠法の伝播したことで既知となった世界です。

精霊戦争当時にここから珠法士がやってきて珠法を伝えたと言います。

前回に話の出た天翔さん、もしくはカントさんがその珠法士であ

る可能性が高いと思われます。

ほぼ現在の太陽系と同じ別バージョンの世界だそうです。

生命原理

汎世界における生命の定義です。

人間原理を拡張したもので。宇宙の法則を、かくあれ、と規定する力です。

これが珠法の原理となります。

人間原理とは、この宇宙がこの様な仕様なのは、それを観測する人間がそう望んだからだという説です。

逆に、それを成している存在を生命と呼ぶんだという話ですね。

帰納的に経験則としてこれを真と置くことで、珠法を演繹的に定義しようという話ですが、作者のドヤ顔が目には浮かびます。

珠法

常世の国に遍く存在している生命が連携し自己組織化することで、より恣意的かつ大規模に因果を選択すること。

生命原理にあるように、生命の定義としては珠法を限定的に使用している存在だということです。

つまり、珠法士でなくても恒常的に誰もが珠法を使っているという設定です。

術式

珠法を工学的に扱う制御手法です。

珠法士は複数人（中堅以上なら数十名）の術式開発メンバーを雇用していることが多いのですが、師匠には居ませんか？

伊邪那岐命と伊邪那美命

汎世界に珠法を伝えたという伝説的珠法士です。

延々と争い続ける迷惑な人達ですね。

まだ生きていますそうです。

魂魄

珠法における生命の構造です。

常世の国に散らばる個々の生命端末を魄、生命群のネットワークを魂と呼びます。

魄が既に存在していないのに魂が限定的な影響を及ぼす現象を幽霊と呼びます。

幽霊と聞いて師匠は、コレの事かと思ってたそうです。

伝説とされている中矢晴美さんの幽霊なら見てみたいということでしょうか。

『前回、伏線と言っていたのはどこでしょう？』

さすがにそれはバラしたら駄目でしょう。

『今回の投稿ペースは早かったね』

前回に書ききれなかったいわば後書き出張版だからねえ。
次回はまたちよつと時間かかるとか。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3601v/>

りばいばる

2011年10月9日03時20分発行